



392

243



岡山縣久米郡祭神考證

始



392-243



兼山



大正
10 11. 7
内交



神德
清明

大正十年
春三月

兼山



大正
10 11. 7
内交

序文あり
著作権の関係で非公開

御祭神系圖

- 天御中主神 稻岡南村大字北庄山手村社北山神社
 - 高皇產靈神 全上
 - 神皇產靈神 全上
 - 味葦加毘彥遲神 全上
 - 天常立神 以上別天神ト云
 - 國常立神 福岡村大字横山村社森神社
 - 國狹槌神 佐良山村大字一方村社佐良神社
 - 豐斟淳神
 - 須比比地邇神
 - 活角織織神
 - 大戸乃邊神
 - 大戸乃邊神
 - 淤志古坭神
 - 伊邪那美神
 - 伊邪那岐神
- 以上神世七代ト云。大井和村大字兩山寺村社二上神社

姪子神 福渡村大字福渡村社八幡神社

志那都姫命 倭文中村大字里公文郷社高津神社

軻遇都遲神 加美村大字小原村社小原神社

金山彦命 大井西村大字坪井下郷社鶴坂神社

岡象賣命 同上

埴安姫命 西川村大字西井和村社八幡神社

稚產靈命 稻岡南村大字南庄村社稻岡神社

字氣母智命 弓削町大字上弓削郷社厨神社

天安河原之五百箇石村

大山雷神 大倭村大字南方一色村社山尾神社

高雷神 倭文東村大字桑上縣社貴布禰神社

句句能智命 加美村大字新城村社八幡神社

脚摩乳命 吉岡村大字塚角郷社塚角神社

手摩乳命 同上

石長姫命 三保村大字錦織村社錦織神社

木花佐久夜姫命 龍川村大字上二筒村社倉尾神社

伊都之尾羽張神

根磐裂裂神 西川村大字西井和村社八幡神社

○國狹槌神 佐良山村大字一方村社佐良神社

○豐斟淳神

○字比比地邇邇神

○須比比地邇邇神

○角織織神

○活戶邊地神

○大戶邊地神

○淤志古坭神

○伊邪那岐神

○伊邪那美神

以上神世七代ト云。大坪和村大字兩山寺村社二上神社

姪子神 福渡村大字福渡村社八幡神社

志那都彦命 倭文中村大字里公文郷社高津神社

軻遇都遲神 加美村大字小原村社小原神社

金山彦命 大井西村大字坪井下郷社鶴坂神社

岡象賣命 同上

埴安姬命 西川村大字西坪和村社八幡神社

稚産靈命 稻岡南村大字南庄村社稻岡神社

宇氣母智命 弓削町大字上弓削郷社厨神社

天安河原之五百箇石村

大雷神

大山祇神 大倭村大字南方一色村社山尾神社

高竈神 倭文東村大字桑上縣社貴布禰神社

句能智命 加美村大字新城村社八幡神社

高水上神

脚摩乳命 吉岡村大字塚角郷社塚角神社

手摩乳命 同上

櫛名田姬命 三保村大字錦織村社錦織神社

石長姫命

木花佐久夜姫命 龍川村大字上二箇村社倉尾神社

伊都之尾羽張神

磐裂神 西川村大字西坪和村社八幡神社

磐筒之男神

磐筒之女神 大井西村大字坪井下郷社鶴坂神社

經津主神

斐速日神 倭文西村大字中山手奥村社刀八神社

熯速日神

健甕槌命

倭文西村大字中山手奥村社刀八神社

鳴雷神 佐良山村大字一方村社佐良神社
速玉之男命 弓削町大字羽出木村社波多神社
泉津事解之男命 同上
八那戸神 加美村大字西幸郷社西幸神社
八衢彦神 同上
八衢姫神 同上
大禍津日神 加美村大字頼元村社磐筒神社
大直毘神 西川村大字奥山手村社德尾神社
伊豆能賣神

天之二水分神
國之水水分神
稻岡南村大字北庄山手村社北山神社

底津綿津見神 加美村大字原田村社諏訪神社
底筒之男命 吉岡村大字大戸上村社住吉神社
中津綿津見神 諏訪神社
中筒之男神 住吉神社
上津綿津見神 諏訪神社
上筒之男神 住吉神社

大綿津見命

豐玉毘賣命 大井西村大字坪井下郷社鶴坂神社
玉依毘賣命 同上

天照大御神 同上
月夜見命 倭文中村大字里公文郷社高津神社
素盞鳴命 三保村大字錦織村社錦織神社

田心毘賣命 大井西村大字坪井下郷社鶴坂神社
市杵島姫命 全上
多岐都比賣命 全上
八嶋士奴美神 福渡村大字下神目郷社志呂神社
大年神 加美村大字西幸郷社西幸神社
須勢理毘賣命 加美村大字頼元村社磐筒神社

聖年神 加美村大字油木北村社少彦名神社
御津彦命 龍山村大字中板村社八幡神社
興津姫命 神目村大字宮地村社宮地神社
羽山戸神 神目村大字宮地村社宮地神社
大山咋命

別雷命
大井和村大字両山寺村社二上神社

狹田彦神 弓削町大字松村社素鷲神社
大田命 三保村大字錦織村社錦織神社

若山咋神
若年神

天之冬衣神

八士神 打穴村大字打穴上村社宮代神社
大己貴命

大國御魂神
大物主神 倭文西村大字中山手里村社八幡神社

天日方奇日方命

中筒之男神 住吉神社
上津綿津見神 諏訪神社
上筒之男神 住吉神社

大綿津見命

豐玉毘賣命 大井西村大字坪井下 郷社鶴坂神社
玉依毘賣命

天照大御神 同上
月夜見命 倭文中村大字里公文 郷社高津神社
素盞鳴命 三保村大字錦織村社錦織神社

田心毘賣命 大井西村大字坪井下 郷社鶴阪神社
市杵島姬命 全上
多岐都比賣命 全上

八嶋士奴美神 福渡村大字下神目 縣社志呂神社
大 年 神 加美村大字西幸 郷社西幸神社
須勢理毘賣命 加美村大字賴元 村社磐筒神社

聖 年 神 加美村大字賴元 村社磐筒神社
御 年 神 倭文中村大字油木北 村社少彦名神社
興津彦命 龍山村大字中毅 村社八幡神社

羽山戸神 神目村大字宮地 村社宮地神社
大山咋命

別雷命 大井和村大字両山寺 村社二上神社
狹田彦神 弓削町大字松 村社素鷲神社

大田命 三保村大字錦織村社錦織神社

若山咋神
若年神

天之冬衣神

八士神 打穴村大字打穴上 村社宮代神社
大己貴命

大國御魂神 倭文西村大字中山手里 村社八幡神社
大物主神

天日方奇日方命
姫蹈輔五十鈴姬命

御井神 倭文中村大字油木北 村社倭文神社
味鋺高日子根神
下照比賣命 福渡村大字下神目 縣社志呂神社
言代主神

○ 天思兼命 加美村大字賴元 村社磐筒神社
津速產靈命

天相命

興台產靈神

天兒屋根命

打穴村大字打穴西 郷社柳葉神社

天忍雲根命

天日方奇日方命
姫蹈輔五十鈴姫命

御井神

味鋺高日子根神

倭文中村大字油木北村社倭文神社

下照比賣命

言代主神

福渡村大字下神目縣社志呂神社

高照姫命
賀夜奈流美命
健御名方命

加美村大字原田村社諏訪神社

天之忍穗耳命
天之穗日命
天津日子根命
活津日子根命
熊野久須毘命

大埴和村大字境村社境神社

稻岡南村大字北庄山手村社北山神社

天日一箇命
武夷鳥命

倭文中村大字里公文郷社高津神社

出雲國造出雲臣等ノ祖ナリ

天火明命

鶴山村大字中埴和谷同和田南界村社日高神社

石凝登賣命
字麻志摩遲命

伊香賀色雄命
天津彦火邇々藝命

字麻志摩遲七世ノ孫倭文東村縣社貴布禰神社

全上

火須勢理命
火火出見命

鶴田村村社日高神社

同上

鵜葺草葺不合命
武位起命

加美村大字越尾村社摩賀多神社

稚根津彦命

彦五瀬命
彦稻冰命
三毛入野命
神倭磐余彦命

大井西村大字坪井下郷社鶴阪神社

神武天皇稻岡南村村社稻岡神社

孝元天皇

人皇八代

開化天皇
比古布都押之信命

人皇九代

武內宿禰

大埴和村大字大埴和西郷社八幡神社

崇神天皇
日子坐王

人皇十代

息長宿禰王

日子坐三世孫

息長帶姫命

埴和村大字埴和谷村社八幡神社

豐鉏入姫命
垂仁天皇

景行天皇

天日一箇命 倭文中村大字里公文 郷社高津神社

武夷鳥命 出雲國造出雲臣等ノ祖ナリ

天火明命 鶴田村大字中坪和谷同和田南界村社日高神社

石凝登賣命

宇麻志摩遲命

伊香賀色雄命 宇麻志摩遲七世ノ孫 倭文東村 縣社貴布禰神社

天津彦火邇々藝命 全上

火須勢理命 鶴田村 村社日高神社

火火出見命 同上

鵜葺草葺不合命 加美村大字越尾村 村社摩賀多神社

武位起命

椎根津彦命

彦五瀬命

彦稻冰命

三毛入野命 大井西村大字坪井下 郷社鶴阪神社

神倭磐余彦命 神武天皇 稻岡南村 村社稻岡神社

孝元天皇 人皇八代

開化天皇 人皇九代

比古布都押之信命

武内宿禰 大坪和村大字大坪和西 郷社八幡神社

崇神天皇 人皇十代

日子坐王 日子坐 三世孫

息長宿禰王 日子坐 三世孫

息長帶姫命 大坪和村大字大坪和谷 村社八幡神社

豐鉏入姫命

垂仁天皇

景行天皇

倭姫命 加美村大字新城村 村社八幡神社

鐸石別命

古麻佐 鐸石別十世ノ孫

佐波良神 佐良山村大字一方村 村社佐良神社

伎波豆神 全上 日本後紀波伎豆

宿奈神 全上

乎麻呂神 全上

清麻呂神 全上

日本武命

仲哀天皇 大坪和村大字中坪和谷村 村社八幡神社

應仁天皇 久米村大字宮尾 郷社八幡神社

仁德天皇 打穴村大字打穴西 郷社櫛葉神社

高皇產靈神(北山神社)

少彦名命 倭文中村大字油木北村社少彦名神社

角凝魂命

安牟須比命

天棚機姫命 倭文東村大字桑上縣社貴布禰神社

玉依姫命

天忍日命

道臣命

天手力男命 龍山村大字上級村社門神社

天日鷲命 佐良山村大字一方村社佐良神社

長白羽命

天羽槌雄命 倭文中村大字油木北村社倭文神社

天太玉命 加美村大字原田村社諏訪神社

天鈿女命 龍川村大字上二箇村社倉尾神社

健角身命 倭文東村大字桑上縣社貴布禰神社

三嶋溝咋耳命

天富命

勢夜多多良姫命

玉依姫命 倭文東村大字桑上縣社貴布禰神社

玉依姫命 稻岡南村大字北庄里方村社加茂神社

天明玉命

手置帆負命

彦狹知命

三穗津姫命 稻岡南村大字南庄村社稻岡神社

天思兼命 加美村大字頼元村社磐筒神社

津速産靈命

天相命

興台産靈神

天兒屋根命 打穴村大字打穴西郷社榊葉神社

天忍雲根命

天兒屋根命

菅原道實 藤原家祖

天穗日命ノ后胤 福岡村大字八出郷社八出神社

天兒屋根命后神 龍川村大字全間村社八幡神社

系統不詳ノ祭神

天照大御神ノ御子共及御妹共云フ 打穴村大字打穴北村社磐柄神社

稚日女命 大埴和村大字大埴和西郷社八幡神社

芳賀彦命

芳賀姫命

天太玉命 倭文中村大字油木北村社倭文神社
加美村大字原田村社諏訪神社

天鈿女命 龍川村大字上二箇村社倉尾神社
健角身命 倭文東村大字桑上縣社貴布禰神社
三嶋溝咋耳命 縣社貴布禰神社

天富命

勢夜多多良姬命 倭文東村大字桑上縣社貴布禰神社
玉依姬命 稻岡南村大字北庄里方村社加茂神社
玉依姬命 稻岡南村大字北庄里方村社加茂神社

天明玉命
手置帆負命

彥狹知命

三穗津姬命 稻岡南村大字南庄村社稻岡神社
天思兼命 加美村大字頼元村社磐筒神社

津速産靈命

天相命

興台産靈神

天兒屋根命 打穴村大字打穴西郷社柳葉神社

天忍雲根命

天種子 藤原家祖

菅原道實 天穗日命ノ后胤 福岡村大字八出郷社八出神社
天兒屋根命后神 龍川村大字全間村社八幡神社

系統不詳ノ祭神

天照大御神ノ御子共又御妹共云フ 打穴村大字打穴北村社磐柄神社
大埴和村大字大埴和西郷社八幡神社

又名菊理姫ト云 鶴田村大字和田南郷社和田神社
同上

弓削町大字上弓削郷社厨神社

福岡村大字八出郷社八出神社

稻岡南村大字山之城村社天津神社

龍川村大字上二箇村社倉尾神社

福渡村大字下神目縣社志呂神社
神目村大字峠村社峠神社 伊勢天照皇大神宮神主

阿波良命

宇根神

赤木忠春

天香々脊男

度會春彦

天熊大人

元玉見命

白山姫命

芳賀彦命

芳賀姫命

稚日女命

菅原道實

天種子

例言

一 本書の神社は社格の如何を問はず之を混記し町村須に之を掲記したり
一 本書の祭神名は總て神社明細帳を根據としたるものにして其文字が或は實際と相違せ

- 白山姫命 又名菊理姫ト云 鶴田村大字和田南郷社和田神社
- 元玉見命 同上
- 天熊大人 弓削町大字上弓削郷社厨神社
- 度會春彦 福岡村大字八出郷社八出神社
- 天香々脊男 福岡南村大字山之城村社天津神社
- 赤木忠春 龍川村大字上二箇村社倉尾神社
- 字根神 福渡村大字下神目縣社志呂神社
- 阿波良命 神目村大字峠村社峠神社 伊勢天照皇大神宮神主

例言

- 一 本書の神社は社格の如何を問はず之を混記し町村須に之を掲記したり
- 一 本書の祭神名は総て神社明細帳を根據としたるものにして其文字が或は實際と相違せるが如き場合あきを保し難く又同一祭神にして其の文字を異にせるが如き場合も尠しとせざるも其儘之を掲載せり
- 一 本書中活字の誤植に對しては卷末に正誤表を掲げ置たるも此以外尙誤植あるを免かれず讀者之を諒せよ

392-243

岡山縣久米郡祭神考證

本書の編纂に當り家本正武氏は之れが資料を提供せられ爲眞元臣氏は起稿の勞を取られ藤卷正之、山田早苗、難波常春諸氏の校閲其他諸般に關し多大の援助を與へられたるは感謝に耐へず茲に芳名を縁して永く謝意を表す

岡山縣久米郡祭神考證目次

一大井西村	鄉社	鶴坂神社	一	一同	村社	少彦名神社	一
一大倭村	村社	山尾神社	七	一同	同	倭文神社	二
一同	同	八幡神社	七	一同	同	八幡神社	四
一久米村	鄉社	八幡神社	八	一同	同	刀八神社	三
一同	村社	藤和田神社	二	一西川村併和村界同	同	八幡神社	四
一三保村	同	錦織神社	二	一西川村	同	德尾神社	四
一打穴村	鄉社	榊葉神社	六	一併和村	同	小山神社	四
一同	村社	宮代神社	三	一同	同	八幡神社	五
一同	同	白山神社	四	一大併和村	鄉社	八幡神社	五
一同	同	磐柄神社	四	一同	村社	境神社	五
一倭文東村	縣社	貴布禰神社	六	一同	同	二上神社	五
一倭文中村	鄉社	高津神社	三	一鶴田村	鄉社	和田神社	六

郷社

鶴坂神社

鎮座
祭神

大井西村大字坪井下字鶴坂

大日靈貴命、おほひのたまひののみこと 譽田別尊、ほんだわけのみこと 市杵島姬命、いちきしまのひめのみこと 湍津姬命、たづのひめのみこと 田心姫命、のりこころのひめのみこと 大山祇命、おほやまのつたのみこと

大己貴命、おほのむねのみこと 素戔鳴命、すさのなるのみこと 國常立尊、くにのこたえのみこと 豐玉姬命、とよたまのひめのみこと 軻遇突知命、くわぐつたちのみこと 倉稻魂命、くらいなたまのたまのみこと

磐筒之男命、いはつゝのをとこのみこと 菅原道真公、すがはらのみちまろ 高雷命、たかねのみこと 三毛入野命、みけいりののみこと 速玉男命、はやたまのをとこのみこと 金山彦命、かみやまのひこのみこと

火産國命、ひむすのくにのみこと 國象女命、くにさげのめのみこと

御事歴

大日靈貴尊 亦の御名を撞賢木嚴之御魂天疎向津比賣命、天照大御神、豐日靈命、日神と稱す、即ち伊勢神宮の内宮に坐す大神である。伊弉諾尊の皇女御母

は伊弉冊尊で皇祖瓊々杵尊の御祖母である。伊弉諾尊が伊弉冊尊と御夫婦の告別をなされたる後顯國に歸へり給ひ穢なき國に行つた事を忌み給ひて筑紫の日

向橋の小門の阿波岐原に到つて身褻被ひ給ふ時に三貴子を生む即ち大日靈貴命
 月夜見尊、素盞鳴尊といふ。大日靈貴尊は光華明彩六合の内に照徹す、即ち尊
 に命じて高天原を治めしむ、尊は高天原の主たり 即ち農業、養蠶、織物等
 を奨勵し治蹟頗る見るべきものがあつたが御弟の素盞鳴尊の横暴なるを憤り一
 時天窟屋に戸を閉さして隱座されたが群神の請によりて再び出でて政事を聽く
 これより先素盞鳴尊と誓約して天之忍穗耳命、天之穗日命、天津日子根命、生
 津日子根命、熊野久須日命の五子を生みやがて天之忍穗耳命を立て、太子とな
 し豊葦原中國を治めしめんとするの意ありしが、當時中ッ國には大國主尊の勢
 力強大なりしを以てまづ武甕槌神、經津主神等を遣はして之を平定せしむ、忍
 穗耳命は瓊々杵尊を生む、大神特に寵愛し父尊に代りて中ッ國を治めしめんと

し即ち授くるに三種の神器を以てし、且勅して曰く此寶鏡は我魂なりこれを視
 ること猶吾を視るが如くなるべし與に床を同うし殿を共にして吾前を拜くが如
 く齊きまつれ「豊葦原の千五百秋の瑞穗國は是れ吾子孫の主たるべきの地あり
 爾皇孫就きて治らすべし行きくませ寶祚の隆へまさむこと天壤と無窮なるべし
 」と此大詔を煥發された、此の寶祚無窮の神勅と、神鏡奉齋の教とは實に我國
 体の神隨である、一は憲法に明示せられてある皇統の基傑となり一は敬神奉齋
 の大禮とあり祖先崇拜の大義とあつてゐるのである

代々の天皇は御命令のまゝ、に同殿同床にお祭されたが人皇十代崇神天皇の御代
 に大和笠縫に十一代垂仁天皇二十五年に伊勢五十鈴川上に別に御宮殿を造て御
 鎮座なされて御歴代崇教が變る事がないのであり伊勢神宮は是である

○譽田別命（久米村八幡神社参照）○市杵島姫命 亦の名を狹依毘賣命、中津島姫命と云ふ ○湍津姫命 亦の名を高津姫命、神屋楯姫命、邊津島姫命と云ふ
 ○田心姫命 亦の名を多紀理姫命與津島姫命と云ふ、市杵島姫命以下三神は素盞鳴命と天照大神との誓約によりて生れ給ひし素盞鳴命の御子である、この三神は福岡縣宗像郡大島村田島村官幣大社宗像神社及び廣島縣佐伯郡嚴島町官幣中社嚴島神社に祀る處の神である、當神社も嚴島神社より奉齊せるものである
 ○大山祇命（山尾神社参照） ○大己貴命（宮代神社参照） ○素盞鳴命（錦織神社参照） ○國常立命（森神社参照） ○豊玉姫命は大綿津見神の御子にして火出見命の後神である火々出見命は御兄火照命と山海の漁獵の幸を替へて火々出見命は漁をする時釣を失はれた兄神のお怒りは一方ならず元の釣を返へせよ

と申されるので佩劍を研つて澤山の釣を作つて出されたが尙は責められるので遂に鹽土老翁の授けにより無目籠に乗せられて海津見神の御許に至りこの旨を述べ願ふ處あり同神の力に依つて多くの海魚を集めて取調べたる結果元の釣を取得て兄命に返した。其の時海津見神の女豊玉姫神の婿となつて居られたので其後豊玉姫命が參來りて姪身に於て今は臨月であるとの事で俄かに其の海邊の波限に産殿を造り鵜の羽葺草を以て屋根を葺く末だ葺き終はらざるに産氣付き産殿に入りて御子を生み給ふ御子の御名は天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命と申す即ち神武天皇の父君である、かくて豊玉姫命は遂に海津見命の許へ歸へり給ふ（日高神社参照） ○軻遇突知命（小原神社参照） ○倉稻魂命（厨神社参照） 磐筒之男命は伊弉諾命が迦具都智命を斬り給ひし時其血刀の前に付着したる其

血より生れ座せし石拆神、根拆神二神の御子である。又かの大國主命の國譲りの時武甕槌命と共に天津神の使命を果した経津主命はこの神の御子である

○菅原道真（八出神社参照）○高靈神（貴布禰神社参照）○三毛入野命 亦名を御毛沼命云ひ 葦草葺不合命の第三の皇子（神武天皇の御兄弟）母は豊玉姫命の妹玉依毘賣命である。○速玉男命（波多神社参照）○金山彦命は伊弉諾命伊弉册命の御子にて金の神に坐し鑛山の守護神で且つ金属を掌り給ふ神である國の一宮中山神社の御祭神と同神である（稻岡神社雅産靈命参照）○火産靈命（小原神社参照）○罔象女命は伊弉諾の御子にして水を掌り給ふ神である。家々の井戸に祭る神即ち御井神、雷神と共に齊き祀る神である（稻岡神社参照）

村社 山尾神社

鎮座 大倭村大字南方一色字山尾

祭神 大山祇命

御事歴 大山祇命亦名大山績御祖命、大水上命、大水上御祖命、大山水神、山雷神と云ふ

火産靈神の御子にて山を守護し給ふ即ち山の神である。

境内神社 八幡神社 祭神 譽田別命（久米村八幡神社参照）

高村神社 祭神 大日靈貴命（鶴坂神社参照）

村社 八幡神社

鎮座 大倭村大字南方中字八幡

祭神 譽田別尊ほむたわかびのみこと

御事歴 (久米村八幡神社參照)

郷社 八幡神社

鎮座 久米村大字宮尾字宮尾

祭神 譽田別命ほむたわかびのみこと

相殿 足仲彦命たらしなかつひこのみこと 息長帶姫命おきながたらしひめのみこと

配祀 經津主命つひねのみこと 建御名方命たけみかたのみこと 素盞鳴命すさなみのみこと

御事歴 譽田別命は第十五代應神天皇である、仲哀天皇の第四皇子 母は息長帶姫命

仲哀天皇の九年三月曾筑紫國にて生れ給ふ、神功皇后三年正月三日皇太子に立ち

磐れ余に都し若櫻の宮と稱す。七十年庚寅正月御即位天皇二年三月三日仲姫を立て、皇后となす同七年九月高麗人百濟人任那人新羅人並に來朝す、同十五年秋八月六日百濟王阿直岐を遣はして良馬二匹を獻く、亦阿直岐は能く經典を誦む。同十六年二月王仁來朝して論語十卷千字文一卷を獻る、即ち阿直岐王仁の二人は我國に漢書を獻るの初めである。同四十一年二月十五日崩御、時に寶算百十歳(古事記には御年百三十歳とあり) 御陵は河内國惠賀の裳伏の岡にある、御子すべて二十六人(皇子十一人皇女十五人)あり、姓氏録を案するに其未裔に息長真人、山道真人等多し(埴和村八幡神社參照) ○經津主命(刀八神社參照) ○建御名方命(諏和神社參照) ○素盞鳴命(綿織神社參照) ○足仲彦命 ○息長帶姫 (埴和村龜山八幡神社參照)

境内神社

御先神社 祭神 倉稻魂神

(厨神社参照)

高良神社

祭神 武内宿禰

(埴和村柏鶴山八幡神社参照)

(福岡縣三井郡に國幣中社高良神社あり祭神高良玉垂命即ち綿津見命を祀る)
(武内宿禰の本宮は鳥取縣岩見郡國幣中社宇倍神社である)

惣領神社

祭神 狹田彦命

(素鵝神社参照)

村社

藤和田神社

鎮座

久米村大字領家字藤和田

祭神

伊弉諾命 菅原神

相殿

天穗日命

御事歴

○伊弉諾命(二上神社参照) ○菅原神(八出神社参照) ○天穗日命(境神社参照)

境内神社

車戸神社 祭神 大己貴命

(宮代神社参照)

○事代主命(志呂神社参照)

村社

錦織神社

鎮座

三保村大字錦織字中山

祭神

素盞鳴命、櫛稻田姫命、瀬織津姫命、大山祇命、火産靈命、軻遇突智命、倉稻魂命、八衢彦命、八衢姫命、來名戸神、奥津彦命、譽田別命

相殿

大己貴命、少彦名命、大田命、大宮姫命

御事歴

素盞鳴命 亦名神速須佐之男命、勝速日命、熊野加武呂命、熊野加夫呂岐櫛御氣野命、八束髮速佐須良命と云ふ。伊弉諾尊の皇子御母は伊弉世尊天照大神

の御弟である。父母の兩尊國土經營の功稍々其緒につくに及び三貴子を得天照大神に高天原を月讀尊に滄海原を素盞鳴尊に天の下を統治せしめらる(古事記並に日本書紀の一書には素盞鳴尊を滄海原の君と定めらると見ゆ)然るに尊は勇悍にして天下を治めず暴惡の所業多かりしかば父母の二尊大に之を憂ひ汝は無道にして此國に君たるべき資にわらずと宣ひ遂に根の國に放逐す。時に尊は一度御姉天照大神に見えて退居せんと欲し高天原に赴くに當り溟渤鼓盞し山岳鳴動した。大神は大に驚き尊に異志ありて我國を奪はんとするものであると思召して兵備を整へ男装して之を俟つ。然るに尊は決して惡意あらざるを辯疏せるを以て大神の怒りや、解け遂に三神は誓約して各々皇子女を生みて赤心を表示された。然るに尊は又々横暴を行ひ大神の御田を害し大神の新宮殿を碎き、大神

の齋服殿を侵す等頗る無狀の事が多かつたので大神は大に怒り給ひて天の岩戸に隱退された。茲に於て天下は悉く暗く邪神湧出して常なし諸神は相議して漸く大神の怒りと慰めて岩戸より出しまつる。かくて群神は其の罪を尊に科して根の國に逐ふ。尊は皇子五十猛の神を率ゐて新羅國曾戸茂梨の地に到り後歸へりて出雲國に赴き簸の川上なる鳥上の峰にて足名椎、手名椎を二神のために高志(同國神門郡)ある八岐の大蛇と伐り平けて其女櫛名田姫の死を救ふ。時に大蛇の尾先より名劍を得、「こまは私に有すべきものであ」と使を以て天照大神に献上された。天叢雲劍又草薙劍と稱する三種神器の一に備はれる劍は之である。尊は櫛名田姫と婚し宮を須賀の地に立つて之に移る、「八雲たつ出雲八重籬妻むめに八重垣作るその八重垣を」といへる歌はこの時の詠である(こ

れは三十一文字の短歌にして最古の歌である。御子八島土奴美神あり。然して後遂に根の堅洲國（泉津國）に就き給ふ（鶴坂神社參照）。○櫛稻田姬命 亦名奇稻田美等與麻奴其比賣命、眞髮禰奇稻田比賣命、稻田比賣命、櫛名田姬と云ふ。素盞鳴命の後なる事前條の如し。○瀨織津姬命（磐筒神社參照）。○大山祇命（山尾神社參照）。○火産靈命、軻遇突智命（小原神社參照）。○倉稻魂命（厨神社參照）。○八衢彦命。○八衢姬命。○來名戸神（西幸神社參照）。○奥津彦命。○奥津姬命（龍山村八幡神社參照）。○譽田別命（久米村八幡神社參照）。○大己貴命、（宮代神社參照）。○少彦名神（少彦名神社參照）。○大田命 猿田彦命の裔として宇治の土公の祖である。倭姬命世記に云 倭姬命、天照大御神に仕奉りて伊勢國五十鈴川後江にて御饗を献る時猿田彦神の裔宇治土公祖太田命參

相ひき汝が國の名は何と問給ふに佐古久志呂宇遲之國と白して御止代神田を進りき。倭姬命問給はく吉き宮處有や、答曰く佐古久志呂宇遲之五十鈴之河上は是れ大日本國之中に殊に勝れて靈地に侍るなり。其中に翁が世八萬歳之間にも未だ視知らざる靈物有り、照輝ぐこと日月の如くあり、時に献る可と念ひて彼處に禮祭れりと申せり。即彼處に往到給ひて御覽しければ往昔大神誓ひ願ひ給ひて豊葦原の瑞穗國之内に伊勢の加佐波夜之國には美しき宮處有りと見定給ひ、上天よりして投げ降り坐し給ひし、天之逆太刀、逆棒、金の鈴等也と甚く御心に喜び給ひて言上給ひき云々と、伊勢皇大神宮造營のために太田命の領土を献納せる神で其の功績は顯著である。○大宮姬命（倉尾神社參照）

境内神社

栲幡千千姬神社

祭神

栲幡千千姬命

（貴布禰神社參照）

郷社 神葉神社

鎮座 祭神

打穴村大字打穴西字宮山
天兒屋根命、天照大神、事代主神、須佐之男命、大地主命、菅原神、月夜見命、譽田別命、天香々春男、大山津見神、高淤加美神、關淤加美神、火之迦具土神、大已貴神、大物主神、軻遇突智命、埴山姬命、底筒之男命、中筒之男命、表筒之男命、八衢彦神、八衢姬命、來名戸神、大雀神、倉稻魂命

御事歴

本社は天兒屋根命、天照太神、事代主命の三柱を奉齋せるもの須佐之男命以下二十二柱は神社合祀の結果合せ齋る。○天兒屋根命 亦名 天兒屋命（神代系圖に亦名八意思兼神 亦天思兼神 亦天八意命 亦常代思命神と云ふとあるも書紀に時有高皇産靈尊之息思兼神者云々とあれば茲には思兼神は別神とす亦太

詔戸命、櫛真智命、太麻等能智命、大麻等能豆神、櫛真命、國之辭代命、中臣神と云ふ。津速産靈神の御子興台産靈神の御子御母は天石門別安國王主命の女許登能麻遲比賣命である。かの天照大神が天岩屋戸を閉ぢて籠らせ給ひし時に天岩屋の前に御祭を仕奉るに天兒屋根命、太玉命の二神、男鹿の肩骨を拔取りて占事をなし又太玉命は其一族に種々の幣物を作らせて献り、天兒屋根命、太詔戸言を禱白して大御神を慰め給ふ。（鶴坂神社参照）亦邇々杵命葦原中津國に天降り給ふ時に天兒屋根命、太玉命、天宇受賣命、石凝度賣命、玉祖命、并五柱神供奉し殊に天兒屋根命は天津神籬を齋き奉る。故に子孫中臣氏は祭事を司り殊に太詔言を奏する事を世襲した。姓氏録を案するに命の後裔甚だ多く藤原朝臣、大中臣朝臣、伊香連、中臣志悲連、殖粟連、中臣大家連、中臣宮處連、中臣

方岳連、中村壹伎直、津島朝臣、椋垣、荒城、中臣束連、神奴連、中臣大田連、生田首、中臣藍連、菅生村山、狹山、蜂田、殿來、大鳥、民直、許連、屋連、中臣表連等である。○天照大神（鶴坂神社參照）○事代主神（志呂神社參照）○須佐之男命（錦織神社參照）○大地主命は農事に關係深き神で田を作りし時田夫に牛穴を食しめ御年神の怒に觸れ田に蝗が発生した此時大地主神の力により蝗を除くを得た事がある、又多く其土地の地主命則ち其地の蠶を祭りて大地主命とも云つて居る。又大國主命の別名をも大地主命とも云ふ事がある（宮代神社參照）○菅原神（八出神社參照）○月夜見命（高津神社參照）○譽田別命（久米村八幡神社參照）天香々脊男（天津神社參照）○大山津見神（山尾神社參照）○高淤加美神 閼淤加美神（貴布禰神社參照）○火之迎具突智神 軻遇

突智命（小原神社參照）○大己貴神（宮代神社參照）○大物主神（倭文西村八幡神社參照）○底筒之男命、中筒之男命、表筒之男命（住吉神社參照）○八衢彦命、八衢姫命、來名戸神（西幸神社參照）○大雀神は譽田別命 應神天皇第四皇子御母は品陀真若王之女、中日賣命である。後の御謚號を仁德天皇と申す。難波の高津宮に天下を治め給ひ尤も御仁徳の尊き大君に座す。天皇の二年三月磐之姫命を立て皇后となす。曾て天皇は海運、交通、灌漑等に大に御心を寄せさせ給ひ大ひに産業を起して國家の隆昌を期し甚く人民を慈愛し給ふ。同十一年四月詔書を下し秦の歸化人（應仁天皇の御代秦造の祖弓月君が率ゐてきた百姓なり）を使役して茨田堤及茨田の三宅（三宅は倉庫の意なり河内國茨田郡に在り）を造り又和珥池、依網池を作り、又難波の堀江を堀り海に通じ、又小櫛の

江を堀り、又住江の津を定め給ふ。又或時天皇高臺に登りて四方の國を見をな
はし詔り給ふに國中に煙立たず、「國皆貧窮ならん、故に今より三年間年貢の
使役を除せよ」と、されば大殿は破れ悉く雨漏ると雖も修理をなされず楯と以
て漏雨を受けて雨の漏らざる所に移り避け給ひしと、然して後再び高臺に登り
國內を見をなはし給へば民家に煙勢よく立ち昇つて居つた。日本書紀の歌に「
たかどのののぼりて見れば雨の下よもにけぶりて今ぞとみぬる」と茲に於て
初めて課役を科し給ふ。其他御仁徳の御事蹟多し、故に御代を稱へて聖帝の世
と云ふ。八十七年正月十六日崩御、御年百四十三歳（古事記には御年八十三歳
とあり）御陵は毛受之耳原（和泉國大鳥郡に在る）○倉稻魂命（厨神社参照）

境内神社

宇賀神社 祭神 宇賀魂命（厨神社参照）○火産靈神（小原神社参照）○奥

津彦命 ○奥津姫命（龍山村八幡神社参照）○天鈿女命（倉尾神社参照）

乳呼神社 祭神 不詳

村社

宮代神社

鎮座

打穴村大字打穴上字宮代

祭神

素盞鳴命、譽田別命、大己貴命、事代主命、天目一箇神、大山祇神、

御事歴

素盞鳴尊（錦織神社参照）○譽田別命（久米村八幡神社参照）○大己貴命 亦
名大名牟遲神、國造大己貴神、大國主命、葦原醜男神、八千予神、宇都志國玉神
大地主神、大名持神、國造大神、大國玉神と云ふ、素盞鳴尊の子或は六世の孫。
天之冬衣神の御子ありと云ふ、御母刺國大之神の女刺國若比賣命である。大國
主命は庶見弟八十神ありしも命は明達温厚よして余りよ性質朴かりしかを兄弟

は疎まれ常々兄弟の尾後につきて袋持をあす、慈愛深くかの白兔を救はれし事
 かと皆人の知れる處である。御祖の命この神を甚く慈しみ給ふと神が大神を二
 度まで殺せしを生かし助けて遂に素盞鳴尊の許へ送り遣はされた。須勢理比賣
 命を娶る。高皇産靈神の御子少彦名命と戮力して國土を經營し威力山陰山陽の
 間を振ふ。又薬師の道及禁厭の道を始め給ひて即ち醫道の祖神である（少彦名
 神社参照）會々天照大神皇孫瓊々杵尊をして葦原中國に君臨せしめ給はんとす
 るの意あり。茲に於て武甕槌命、經津主命二神に命じて出雲國にて國讓の交渉
 とせし時、御子事代主命の諫に依つて此國を天津神の御子に奉り給ふ（刀八神
 社参照）其の證に國平の時に用ひたる廣子を二神武甕槌命、經津主命に渡し。「
 吾この予を持つて治國平定せり、天孫若此予を持つて國を治め給はば必ず平安

ならん。又我子八重事代主神、神の御尾前とありて仕奉らば違ふ神はあらじ」
 とかく申されて大國主神は遂に隱退し給ふ、依つて出雲國多藝志の小濱に天御
 舍を造立てて鎮め奉り天穗日命（其裔千家男爵家なり）と以て之を祭祀せしめ
 らる。則ち官幣大社出雲大社である。故に大國主神及御子事代主神は特に朝廷
 の御崇敬が厚いのである。姓氏録を案するに、大神の末裔甚だ多く大神朝臣、
 加茂朝臣、和仁古、鴨ノ祝部、我孫、神人、宗形君、長公等である。（事代主
 命（志呂神社参照）○天目一箇神（高津神社参照）○大山祇神（山尾神社参照）

境内神社

瓶 神社 祭神 豊玉姬命 とよたまひめのみこと（鶴坂神社参照）

宇賀神社 祭神 宇氣持神 うけもちのみこと（厨神社参照）

興津神社 祭神 興津彦命、興津姫命、おきつひこのみこと 興津村八幡神社参照）

海神社 祭神 綿津見命 (諏訪神社参照)

村社 白山神社

鎮座 打穴村大字上打穴里字重永

祭神 伊邪那美尊

御事歴 伊邪那美尊 (二上神社参照)

内境神社 天香々脊男神 祭神 天香々脊男 (天津神社参照)

大山祇神社 祭神 大山祇神 (山尾神社参照)

村社 磐柄神社

鎮座 打穴村大字上打穴北字岩柄

祭神 稚日女命

御事歴

稚日女命の御父母不詳(舊事紀に織女稚日女尊者天照大御神の妹とあり、又口次には伊弉諾尊の御子とあり又大國主神の九代の孫天日腹大科度美神の母神に若晝女神あるも之は異神あること古事紀傳に云へり)書紀一書に素盞鳴命高天原の天照大御神の御許に至り荒びます時に稚日女尊、天照大御神の服殿にて神服織り給ふを素盞鳴命見となはして班駒を逆刺して殿内に投入る、稚日女命驚きて機より墮ち、體を傷めて神去された。(古事記には天衣織女とあり)故に天照大御神は素盞鳴命に詔り曰く「汝猶黒心有り相見まぐ欲りせず」とて乃ち天岩戸に籠らせ給ふたのである神功皇后三韓征討凱旋の時稚日女命の神託に依りて吾は活田の長狹國に在りて天皇の御前を守護らんと詔り給ふ。依てこの地に御殿を造り祭り給ふ攝津國神戸市鎮座の官幣中社生田神社これである

縣社 貴布禰神社

鎮座 倭文東村大字桑上字宮山

祭神 高靈神、閻靈神、玉依彥命、伊香賀色雄命、天柵機姬命、大己貴命、

天磐戸別命、天穗日命、火之迦具土命、菅原道真

相殿 高皇產靈尊、天羽槌雄神、神日本磐余彥尊、品陀和氣命、天津彦火瓊瓊杵命、建角身神、別雷神、宇賀魂神

御事歴

高靈神 ○閻靈神 二神は火産靈神の御子である。伊弉册命は火神火産靈神を生み美蕃登を炙きて神去り給ひき。依て伊弉諾命之を怒りて火産靈神を伐り給ふ時に御刀を持ちし御手の俣より落ちたる血に困りて成りませる神である。この神を古事記には閻淤迦美神とあり日本書紀には高靈神とある。龍の神にて雨

を司り給ふ。故に祈雨祭(雨乞ひ)に祀る神である。即ち山の高き處に座して雨を司る神を高靈神と云ひ(大和國官幣大社丹生川上神社上社これなり)又山の谷間に座す時は閻靈神と云ふ(同上丹生川上神社下社これなり)之は一神にして二柱に祀れるものである。是の例多く例へば天石戸別命を門神として祀る時は豊磐間戸神、櫛磐間戸神と稱するが如くである。(神社の隨神門に祀るはこの神なり)祈雨、祈晴に神徳顯著ある事は丹生川上神社の傳記又山城國官幣中社貴船神社の傳記等に數多見ゆる所である。各地に祀れる龍王宮(龍宮)は高靈神にして又瀧の宮は閻靈神を祀たものである。○玉依彥命 亦名を健玉依毘古命と云ふ。高皇產靈神の御末健角身命の御子、御母は丹波國伊賀古夜比賣である。此の神の弟女玉依姬命は加茂別雷神の御母神である。玉依彥命は葛野鴨縣

主、西泥土部等の祖である。○伊香賀色雄命、饒速日命の五世孫鬱色雄命の孫にて御父は大綜杵命 御母は高屋阿波良姫命にて崇神天皇の後伊香色謎命の御弟である。春日宮(開花天皇)の御宇に大臣となる、磯城瑞籬宮(崇神天皇)の御世に大臣に詔して諸神を祭る事を司らしむ(舊事記)この御代に疫病流行す時に天皇の御夢に顯はる。大物主神の神託により意富多々泥古を大神の神主として御諸山に齋き奉り、又伊香賀色許男命をして天之孫毘羅河を作り天神地祇の社を定め奉り、又宇陀墨坂神に赤色の楯矛を又大坂神に黒色の楯矛を又坂の御尾の神及河瀬神に悉く遺る事かく幣帛を奉る。此に因つて疫病息み國家平安となるこれ皆伊香賀色雄命の祭に預る處で本神社に今も其の神徳は赫々として顯はれ崇敬者の參拜絶えず氏子内には且て傳染病にて死せる者なしと傳へらる

○天棚機姫命 亦名天萬栲幡千幡比賣命 萬幡豊秋津比賣命 萬幡豊秋津師比賣命 萬幡比賣命 火之戸幡比賣命 栲幡千千比賣命 天八千千比賣命と云ふ。高皇產靈神の御子である。この神は天忍穗耳命の後神(古事記)にして邇々藝命の御母神である。(書紀又古史成文にはこの神の御子玉依姫命を后神ありとあり)○大己貴命(宮代神社參照) ○天磐戸別命(門神社參照) ○天穗日命(境神社參照) ○火之迦具土命(小原神社參照) ○菅原道真(八出神社參照) 高皇產靈神(北山神社參照) ○天羽槌雄神(倭文神社參照) ○神日本磐余彦尊(稻岡神社參照) ○品陀和氣命(久米村八幡神社參照) ○天津彦々火瓊々杵尊は亦名を天邇岐志國瓊岐志天津日高日子番能邇々藝命 天饒石國饒石天津彦火之邇々杵命 天津彦火瓊々杵根命 天津彦根火瓊々杵命 天津彦國光彦火瓊々

杵命 天之杵火火置瀬命 天杵瀬命と云ふ。天忍穗耳命の御子(天照大神の御孫)御母は天萬埜幡千幡比賣命(或は御子玉依姬命ともあり)故れ天津神の命を以て「葦原中津國は吾が御子の知らさん國ぞ」と詔り給ひて武甕槌命、經津主命を中津國に派遣して天下の荒振神を平定し御子天押穗耳命を天降し給はんとする時押穗耳命は我子邇々杵命生れましたるにつもこの御子を天降し座す事に決し茲に天照大神御手づから八尺勾魂、八咫鏡、草薙劍を授け賜ひて勅して曰く「この鏡は専ら吾御魂として吾御前を拜くが如同殿同床に坐さしめて齋さ祀るべし、寶祚の隆まさん事天壤無窮なるべし」と又神魯岐神、神魯美神の命を以て「吾は天津磐境を造りて 天津神籬を越し樹て皇孫命の爲に齋ひ奉らん」と神勅を賜ひ、亦天兒屋根命 夫太玉命 天宇受賣命 石甕度賣命 玉祖命の

五柱亦常世思金神 手力男神 天石戸別神の三柱の神等を従はしめて天降り給ふ時に國津神猿田彦命 前驅を勤め御前を掃ひ奉りて筑紫日向國高千穂の峰に到る。それより吾田の長屋笠狭之御狭之御崎(古事記傳に薩摩國阿多郡阿多村ありとあり)に着き茲に御殿を建て留り天下を知食し給ふ。此則ち皇統連綿たる天皇第一の御祖先の大神である。神祇要錄を案するに邇々杵命初めて日向國高千穂之峰に天降給ひしが後薩摩國阿多郡鷹屋村に遷し給ひ遂に此地に崩す。可愛之山陵に葬る。現今鹿兒島縣薩摩郡東水引村國幣中社新田神社これである。大神の後神は大山祇命の子木花開耶姬命その皇子が火火出見命である。○建角身神 亦名天神立命 天押立命 健茅淳祇命 陶津耳命 八咫鳥命 迦茂建角身命と云ふ。高皇產靈神の御子天太玉命の御子である。此神丹波國神野神伊可

古夜日女に娶ひて生みませる御子玉依姫と云ふ（加茂神社參照） 神武天皇東征の時紀州熊野に到り坐す時高皇產靈神の神勅を以て覺し白し給はく「これより奥に入る忽れ荒振神甚だ多し。と今天より八咫鳥を遣はさん其八咫鳥導きまむ云々」と。天皇その八咫鳥の飛び行くに従ひ軍を進め給ひしかば吉野河の河尻に到り給ひ遂に皇軍の勝利を得給ふ。依りて後に大和國宇陀郡に入咫鳥神社を祀り重く祀り給ふ。山城風土記及姓氏錄に賀茂建角身命 八咫鳥と化して神武天皇東征を援け給ふと見ゆ。 ○別雷神（二上神社參照） ○宇賀魂神（厨神社參照）

■境内神社

- 奥御前神社 祭神 ○高皇產靈神 ○建角身神 ○別雷神 ○高靈神
- 雷靈神 ○天羽槌雄神 ○天津彦々火瓊々杵命 ○神日本磐余彦命の八

郷社

高津神社

柱の神々は何れも本社に條にあり ○天鈿女神（倉尾神社參照） ○須佐之男命

（錦織神社參照） ○大國主神（宮代神社參照）

鎮座

倭文中村大字里公文字南葉山

祭神

大日靈貴尊

相殿

- 倉稻魂命、奥津彦神、奥津姬命、軻遇突智命、菅原神、天目一箇命、天香々春男、素盞鳴尊、大山祇神、月讀命、級長津彦命、級長戸邊命、蛭兒神、保食神

御事歴

大日靈貴尊（鶴坂神社參照） ○倉稻魂命（厨神社參照） ○奥津彦命、奥津姬命（龍山村八幡神社參照） ○軻遇突智命（小原神社參照） ○菅原神、八出神社參照）

○天目一箇命 亦名天麻比止都禰命 天久斯麻比止都命 天久之比命 天御蔭命 明立天御影命 天津麻羅命 天戸間見命と云ふ。天照大神の御子天津日子根命の御子である。故れ天照大神天の岩戸に幽居の時高皇産靈神の命を以ちて八意思兼神に思はしめて諸大神を求ぎて種々の祭具及幣帛を作られた。その時に天麻比止都命に科おほせて雑刀斧及び鐵鐸(今の鈴なり)を作らしむ。故に鍛冶職の祖として祭る神である。亦古語拾遺に「磯城瑞垣朝(崇神天皇)に至りて漸く神威を畏れ殿を同し給ふ事安からず故更に齋部氏をして石凝姥神の裔天日一箇神の裔二氏を率ゐて更に鏡を鑄り劍を造らしめて以て護身の御璽となし給ひき、是今踐祚の日獻る所の神璽之鏡劍也」と見ゆ。この神は筑紫 伊勢兩國 思部 倭鍛冶等の祖である。○天香々春男(天津神社參照) ○素盞鳴命(錦織

神社參照) ○月讀命 亦名を月夜見命 月弓命と云ふ。伊弉諾尊の御子である。伊弉諾尊が泉津國より還りて筑紫の日向の橘の小門の檉原に祓除をし給ふ時に左の御眼を洗ひ給ふ時に生れませしを天照大神次に右の御眼を洗ひ給ふ時に生れませしを月讀命次に御鼻を洗ひ給ふ時に生れませしを素盞鳴尊と申し三貴子をあげられた。父尊は甚だ歡ばれて「吾は子を生みて生み終に三柱の貴の子を得たり」と詔はせ給ふ。かくて月讀命は夜の食國オククニを主宰し給ふ(鶴坂神社及錦織神社參照) 命の本宮は山形縣東田川郡立澤村と泉村との境に座す官幣中社月山神社である。○級長津彦命 級長戸邊命 亦名を天之御柱命 國之御柱命と申す。又龍田の風神にまして(大和國生駒郡三郷村官幣大社龍田神社祭神) 別に龍田比古神 龍田比賣神と云ふ。伊弉諾尊 伊弉冊尊の御子にして風を司り給

ふ。父尊の詔はく「我生りる國唯朝霧のみありて蒸り満てるかな」と乃ち吹撥はせる息氣に生れ給ひし神である。是即ち風神にして天地間の妖氣を吹拂ひ風雨を順調にして五穀豊饒を守護し給ふのである。崇神天皇の御代に五穀不熟の年幾年も續きて苦しめる時天皇自から天津神 國津神に御祈禱をなされし時に御夢に顯はれ給ひし神は即ちこの神である。○蛭兒神（福渡村八幡神社参照）
○保食神（厨神社参照）

境内神社

高良神社 祭神 武内宿禰（大井和村八幡神社参照）
稻荷神社 祭神 倉稻魂命（厨神社参照）

村社

少彦名神社

鎮座

倭文中村大字油木北字宮

祭神

少彦名命 伊邪那岐大神、伊邪那美大神、大己貴命、素盞鳴命、事代主命
大山咋命 御年神、綿津見神、瀬織津姫命、倉稻魂命、奥津彦命、奥津姫命、天香々背男、大宮賣命、猿田彦命

御事歴

少彦名命 亦名を少名牟遲神 少日子神 少御神 手間天神 久斯神と云ふ。
高皇産靈神 神皇産靈神の長子である。大國主神が出雲國三保の御前に坐す時に浪の穂より天之羅摩船に乗りて鵝の皮を衣服とし來る神があつた。其名を問へ共答へず。又隨行の諸神に問へど皆知らずと。そこで多邇具久（今の蟻かり）が云ふには「此は久延毘古（今の案山子なり）が必ず知つて居りませう」と依て久延毘古を召して問はれると「これは神皇産靈神の御子の少彦名神である」と申す。依てその由を神皇産靈御祖命と申上しかば「こは我實子にて我手候

より漏れし子なり汝葦原色許男命と兄弟となり其の國を作り堅めよ」と仰せられた。それより大國主神（葦原色許男命大名牟遲命皆同神あり宮代神社條參照）少彦名命と二神相並びてこの國土を經營し給ふ。然して後には淡島に至りて、粟莖に登りしため弾かれて常世の國に渡られた。又藥師の道及禁厭（さいいん）の法を定給ふ。醫道の祖神であり又温泉場に祭る神である。尙命は酒を醸す道を初め給ひし由古事記仲哀天皇の條に見ゆ。○伊邪那岐大神 伊邪那美大神（二上神社參照）大己貴命（宮代神社參照）○素盞鳴尊（錦織神社參照）○事代主命（志呂神社參照）○大山咋命（宮地神社參照）○御年神は素盞鳴命の御子大年神の御子で御母は香用比賣である。この神は「御年」（みとし）即ち五穀豐饒を守護し給ふ。古語拾遺に「昔神代に大地主神田を營くるの日牛の穴を以て田人に食はしめき。時に御

村社

倭文神社

歲神之子其田に至り饗に唾きて還り狀を以て父に告ぐ御歲神怒を發して蝗を以て其田に放てば苗の葉忽ち枯損して篠竹に似たり。是に於て大地主神片坐（かたまゐり）坐（まゐり）をして其由を占ひ求めしむるに。御歲神崇をなせり。宜しく白猪白鷄を獻りて以て其怒と解くべしと。教に依て謝し奉りしかむ御歲神答て曰く實に吾意也云々」とある。○綿津見神（諏訪神社參照）○瀬織津姬命（磐柄神社參照）○倉稻魂命（厨神社參照）○奥津彦命 奥津姬命（龍山村八幡神社參照）○天香々脊男（天津神社參照）○大宮賣命（倉尾神社參照）○猿田彦命（素鷲神社參照）

鎮座祭神

倭文中村大字油木北字宮

天羽槌男神、伊弉册尊、素盞鳴命、奥津彦神、奥津姬神、品陀和氣命、

御事歴

味鋤高日子根命、高禰神、大己貴命、

天羽槌男神 亦名を天羽雷命、健葉槌命、綺日安命と云ふ。高皇産靈神の三世の御孫天日鷲命の御子である。かの天照大神天の岩戸に幽居し給ふ時に高皇産靈神の命を以て種々幣帛を作らしめられた時に天日鷲命に穀木（今の楮の木なり）を植ゑて白和幣と、長白羽命に麻を植ゑて青和幣を作らしめられた。故に天羽槌男命は文布（倭文）即ち布を織り初められた神である。中古朝廷より服部、倭文、錦織を等諸國に配し國産を豊にし朝貢を賑したるがそれら各氏の祖先である。（天津神社参照）○伊弉册尊（二上神社参照）○素盞鳴尊（錦織神社参照）奥津彦命、奥津姬命（龍山村八幡神社参照）○品陀別命（久米村八幡神社参照）○味鋤高日子根命（佐良神社参照）○高禰神（貴布禰神社参照）○

大己貴命（宮代神社参照）

境内神社

齋神社 祭神 保食神（厨神社参照）

水分神社 祭神 天水分神 國水分神（北山神社参照）

地主神社 祭神 大己貴命（宮代神社参照）

村社

八幡神社

鎮座

倭文西村大字中山手里字湯田

祭神

譽田別命

相殿

天香々脊男、奥津彦命、奥津姬命、大物主命

御事歴

○譽田別命（久米村八幡神社参照）○天香々脊男（天津神社参照）○奥津彦命 奥津姬命（龍山村八幡神社参照）○大物主命 大國主命の和魂の神である。

大國主命が少彦名命と共に國土の經營をなされし後少彦名命は遂に常世の國に渡られたので大國主命は「我一人天下を治める事は甚だ困難である。これより將來は誰と治國經營しやうぞ」とお考へになつて居る所へ寄しき神の光が海原を照らし白き裝束して浪の上に出現して天瓊矛を持來りて曰く「吾が前をよく治めては吾と共に相作りあさむ、もし然かせずば國は成難し」と大國主命問ひ給く「汝は誰ぞ」答けて曰く「吾は汝が靈魂奇魂にして吾が名は大物主命あり」と大國主命又曰く「汝今何處に住まむと思召すや」彼の神答へて曰く「吾は倭の國三諸山に住まむと欲す」と故に宮を彼の大和國三輪に造營し茲に居らしめられた。之が大三輪の大物主櫛瓶玉神である。奈良縣三輪町官幣大社大神神社これありこの命の御子の比賣多多良伊須氣余理比賣命は神武天皇の太后である。

境内神社

若宮神社 際神 宇賀御魂命 (厨神社参照)

綿津美神社 祭神 海洋見命 (諏訪神社参照)

美保神社 祭神 美穗津姬命 高皇產靈神の御女なり大國主神國を避け給ひ

し時其御子 事代主神一族を率ゐて皇孫に仕へ奉りて二心なきを表

はさんために天津神の御子なる此女と婚し給ひぬ

劔靈神社 祭神 經津主命、武甕槌命 (刀八神社参照)

村社 刀八神社

鎮座 倭文西村大字中山手奥字廣末日南

祭神 經津主尊、建甕槌尊

御事歴 經津主尊 亦名を彌加布都神 比古佐自布都神 伊波比主神 と云ふ。火具都

智神の御孫磐筒之男神 磐筒之女神の御子である。○建甕槌尊 武甕槌命とも書
 き亦名を建御雷之男神 建雷神 建布都神 豊布津神 豊香島天大神と云ふ。火具
 都智神三世の御孫熾速日神の御子である。この二神はかの大國主命の國讓の時
 高天原より派遣さきて出雲國に天降り勇武の神徳に依つて天振神を鎮定された
 神である。之をより前天津神の命令をうけて天照大神の御子天忍穗耳命に葦原
 中津國を治めよと仰せられたのでいよく天降りされやうとしたが、天下は非
 常に乱れて居たので先づ之等の荒振神等を平定すべく高天原より第一に天穗日
 命を派遣されたが三年経ても復命しない。次に天若彦命を派遣されたがこを又
 同じく使命を果さない。(佐良神社參照)即ち三度目に經津主命、健甕槌命の二神
 を派遣されたのである。二神は出雲國の伊那佐之小濱に降り着きて涙の上に劍

を刺立て、其の劍の上に座して大國主命に問ふて曰く「この度高木大神(高皇產
 靈神)の命により、汝命の治めて居る葦原中津國は天照大神の御子孫に依つて知
 食すのであるが汝命の心中は如何に」と。大國主命答へて曰く「我は違はず、わ
 が子の事代主命に問へ」と。この時事代主神は三保崎に遊漁に出て居られたの
 で天鳥船神を遣はしてこの旨を傳へて問はれると「畏し、天津神の命の隨にこ
 の國は天津神の御子に獻るべし」と答へらまて、自ら其の乗船を踏み傾けて、
 天之逆手を青柴垣に打成してお隠きになつた。大國主命は次に御子の健御名方
 神にもか問ひにあつた。(諏訪神社參照) 健御名方神は千引の岩を攀げ持ちて
 力競べをなさむたが遂に力及をせ逃走さまた。茲に於て大國主命は天津神の御
 言に隨ふて其の治むる總ての國を獻らまた。そこで二神はこの由を高天原に座

四六
す天津神に復命し尙引つゝき全國の惡しき神を柔和 追放して遂に常陸國信太
郡に至り事終る、かくて二神は天津神の御許へ還へり給ふ。常陸國官幣大社鹿
島神宮は建甕槌尊を 下野國官幣大社香取神宮は經津主尊を奉齋したるもので
何れも武道守護の神である。(宮代神社及志呂神社參照)

村社

八幡神社

鎮座

西川村大字(西井和、東井和) 界字八幡山

祭神

品陀和氣命、饒速日命、事代主命、須佐之男命、奥津彦命、奥津姫命、大物
主命、天照大神、埴安姬命、磐裂神、高龍神、菅原神、綿津見神、宇賀
之御魂命、少彦名命、武御名方尊、天杵瀨命、伊弉諾尊、伊弉册尊
品陀和氣命(久米村八幡神社參照) ○饒速日命(日高神社參照) ○事代主神

御事歴

(志呂神社參照) ○須佐之男命(錦織神參照) ○奥津彦命、奥津姫命(龍山村
八幡神社參照) ○大物主命(倭文西村八幡神社參照) ○天照大神(鶴坂神社參
照) 埴安姬命 亦名を埴山毘賣神 健埴安神 丹生都比賣神 爾保津比賣神 新
具蘇比賣神と云ふ。伊弉諾尊の御子にして土を司り給ふ。土と水とは五穀を作
る上に尤も大切なるもので就中土はこの地球の原素であるから是を守護し給ふ
(稻岡神社雅産靈神の條參照) ○磐裂神 火産靈神の血に因りて生き給ひし神
である。伊弉諾尊が火産靈神を斬り給ひし時その十柄劔に附ける血が岩石に飛
び散りつきて生き座せる神である。○高靈神(貴布禰神社參照) 菅原神(八出
神社參照) ○綿津見神(諏訪神社參照) ○宇賀之御魂命(厨神社參照) ○少彦
名命(少彦名神社參照) 武御名方尊(諏訪神社參照) ○天杵瀨命(貴布禰神社

邇々杵命の條參照) ○伊弉諾尊 伊弉册尊 (二上神社參照)

境内神社

伊都岐神社 祭神 久那戸神 (西幸神社參照)

宮比神社 祭神 天宇受賣命 (倉尾神社參照)

村社

德尾神社

鎮座

西川村大字奥山手字德尾原

祭神

彦火火出見命、瀬織津比咩神、大直日命、品陀和氣命、天照大神、天兒屋根命

相殿 經津主命、武甕槌命

御事歴

彦火火出見命 (日高神社參照) ○瀬織津比咩神 (磐筒神社參照) 大直日命亦名を神直神、大戸日別命、氣吹戸神命 天之吹男神、風木津別忍男神と云ひ、伊弉諾尊の御子である。伊弉諾尊が泉津國より還つて筑紫日向橋の小門の阿波伎

原で禊祓ひをなし給ふた時に、八十禍津日神、大禍津日神の其の禍事を直さんと
思召して生れ坐せる神が則ち神直日命、大直日命である。故に諸種の禍、罪、穢
を拂ひ清め給ふ神である。○品陀和氣命(久米村八幡神社參照) ○天照大神(鶴

坂神社參照) ○天兒屋根命(榊葉神社參照) ○經津主命、武甕槌命(刀八神社參照)

境内神社

松尾神社 祭神 若日靈命 (磐柄神社參照)

村社

小山神社

鎮座

井和村大字小山字小山

祭神

倉稻魂命

相殿

伊邪那岐命、伊邪那美命、天御中主命、天照大神

御事歴

倉稻魂命 (厨神社參照) ○伊邪那岐命、伊邪那美命 (二上神社參照) ○天御中

村社

八幡神社

主命（北山神社參照）○天照大神（鶴坂神社參照）

五〇

鎮座

井和村大字中井和谷字龜山

譽田別尊、足仲彦命、

氣長帶姫尊、

大己貴命、

伊邪那岐命、

伊邪那美命、

奥津彦命、

奥津姫命、

事代主命、

武甕槌命、

大山祇命、

多津見命、

素盞鳴命、

磐裂神、

大和

相殿 天照大神

御事歴

譽田別命（久米村八幡神社參照）○足仲彦尊 仲哀天皇と申す。影行天皇の皇子、日本武尊の第二の御子、御母は垂仁天皇の御女布多遲能伊理毘賣命で穴門（今の長門）の豊浦宮及筑紫の訶志比宮（香稚宮）に座して天下を治め給ふ。

○氣長帶姫尊 神功皇后と申す。御父は開化天皇の後裔息長宿禰王、御母は葛城之高額比賣、仲哀天皇の皇后にて應神天皇の御母君である。成務天皇の四十八年仲足彦命を皇太子に立て天皇崩御の後即位し給ふ。二年正月氣長足姫命を立て、皇后とされた。二月越前角鹿（敦賀）に行幸し箭飯宮（氣比宮あり）を造りて行宮と定めらる。三月皇后を角鹿に留置きて南國を巡狩し、紀伊の徳鞞津宮に駐り給ふ。この時熊襲の叛ありしたため千舟師を率ゐて親征し、一方使を角鹿に遣はして、皇后と穴門（長門）に出會ひ茲に九月宮殿を造りて居給ふ。八年正月筑紫に幸し尋で樞日宮を營みて駐在さる。時に皇后は熊襲の屢々反抗する故は新羅の後援あるがためなれば先づこの新羅を征伐して其の根本を絶滅すべしとて天皇に請はれしも、天皇之を用ひ給はず。進んで熊襲を征し給ひし

五一

が軍利なくして宮に還幸あり。九年二月五日病起り翌六日行宮に崩御さる。御年五十二歳、書紀一書には「天皇親ら熊襲を伐ち賊の矢に中りて崩す」云々である。茲に於て皇后は臣の武内宿禰と議し、秘して衷を發せず。先づ鴨別をして熊襲に當らしめ、皇后自ら男装して海を渡り急に新羅征討に向はれた。新羅王は大に驚き恐れて戦はずして降伏して了た。乃ち大矢田をして其の地を守備せしむ。次で高麗、百濟の二國の王も降參し毎年朝貢を約した。(この三國は今朝鮮なり)而して皇后は筑紫に還御し、この地にて譽田別命を生み給ふ。次で群臣を従つて穴門豊浦宮に移り、更に海路より京に向ひ給ふ。會々この時仲哀天皇の庶王子麿坂、忍熊の二王皇后の行爲に對して不平を抱き兵を擧げて道に要撃す。皇后即ち武内宿禰等を率ゐて、二王子と戦ふて之を殺し乱は平定し

た。皇子即位して應仁天皇と申す。皇后は天皇を奉じ、政を攝する事七十年御年百歳にして崩御し給ふ。大和國生駒郡平城村大字山陵狹城盾列池上陵に葬る。

○大己貴命(宮代神社參照) ○伊邪那岐命 伊邪那美命(二上神社參照)

○奥津彦命 奥津姬命 (龍山村八幡神社參照) ○事代主命(志呂神社參照)

○武甕槌命(刀八神社參照) ○大山祇命(山尾神社參照) ○磐裂神(西堺和八幡神社參照) ○大和多津見命(諏訪神社參照) ○素盞鳴命(錦織神社參照)

●相殿 天照大神(鶴坂神社參照)

境内神社

諏訪神社 祭神 建御名方命(加美村諏訪神社參照)

食稻魂神社 祭神 倉稻魂命(厨神社參照)

愛宕神社 祭神 迦具土命(小原神社參照)

郷社

八幡神社

鎮座

大井和村大字大井和西字柏鶴山

祭神

譽田別命、天照大神、豐受大神、武甕槌命、事代主命、素盞鳴命、句々廻

相殿

馳命、豐玉彥命、豐玉姬命、大山祇命、奥津彦命、奥津姬命、大戸比賣命、足仲日子命、息長帶日賣命、武内宿禰、芳賀彦命、芳賀姬命

御事歴

譽田別命（久米村八幡神社参照）○天照大神（鶴坂神社参照）○豐受大神（厨神社参照）武甕槌命（刀八神社参照）○事代主命（志呂神社参照）○素盞鳴命（錦織神社参照）○句々廻馳命（加美村八幡神社参照）○豐玉彥命、豐玉姬命（鶴坂神社参照）大山祇命（山尾神社参照）○奥津彦命、奥津姬命（龍山村八幡神社参照）○大戸比賣命 御事蹟詳ならず或は此の地方開拓の神ならんか ●相

殿 ○足仲日子命、○息長帶日賣命（井和村龜山八幡神社参照）○武内宿禰

は孝元天皇の皇子、彦太忍信命の御子（一説には御孫にして屋主忍男武雄心命の子なりとも云ふ）御母は菟道彦の女 影媛である。初め景行天皇に事へ、二十五年命を奉じて東北諸國の形勢民狀を視察し、二十七年歸りて奏して曰く「東夷に日高見國あり。男女文身椎結し稟性勇悍なり之を蝦夷と云ふ。土地沃壤にして曠衍なり。撃つて取るべきなり」と。次で成務天皇に事へ三年正月大臣に任ず。（大臣の號の最初あり）仲夷天皇に歴仕し神功皇后に從ひ、三韓を征し歸朝の後、應神天皇を補育し仁徳天皇に及ぶ迄奉仕す。一世五朝に歴仕し官に在る事實に二百四十四年、仁徳天皇の五十五年薨す。其年壽は詳かでない。（二百八十歳又は二百九十五歳又は三百八十歳とも傳ふ）○芳賀彦命、芳

賀姫命 其の系統は明かでないけれ共、この神は地方的祭神でこの命の名に因つて「埴和」と云ふ地名が起つたものである事は疑ひない所である。本社由緒中に「古老の口傳として往昔應神天皇の後裔芳賀彦命（一名加茂主命）此地に來り土地を開き人民を撫育し給ひ、此命大埴和山に社殿を築き品陀別命を奉祀し、大山神社と名づけらる。この命の名に依り地方を「埴和」と云ひ又一名加茂神社と號し此社邊を加茂郷と稱せし事あり云々」とある。尙作陽誌埴和郷に「高城堡條下係圖に埴和八郎爲長 註に曰く埴和豪家と爲す爲長以前不詳」云々とある。或はこの祖であらう。

境内神社

- 倉稻魂神社 祭神 倉稻魂命（厨神社参照）
- 別雷命（二上神社参照）
- 菅原道真公（八出神社参照）

村社

境 神 社

鎮座

大埴和村大字境字宮

祭神

- 素盞鳴命、伊弉諾命、天穗日命、彦火火出見命、倉稻魂命、奥津彦命、奥津姫命、大己貴命

御事歴

素盞鳴命（錦織神社参照）○伊弉諾命（二上神社参照）○天穗日命 亦の名を天夫比命と云ひ天照大神の御子である。（鶴坂神社参照）天孫降臨の時、國土未だ騒乱絶へず、仍てこの命を遣はして中國を平定せしめらる。時に命は大國主命に媚びて復命せざる事三年に及んだ。天津神は再び若日子を派遣して代らしめられた。後に大國主命は國土を献り天日隅宮にかくれて、この命をして祭祀を司らしめられた。（刀八神社参照）則ち出雲國造千家及北島兩男爵家の祖神

である。○彦火火出見命（日高神社参照）○倉稻魂命（厨神社参照）○奥津彦命、奥津姬命（龍山村八幡神社参照）○大己貴命（宮代神社参照）

境内神社

惠比須神社 祭神 事代主命（志呂神社参照）

倉稻魂神社 祭神 倉稻魂命（厨神社参照）

四社神社 祭神 伊弉諾命（二上神社参照）

村社 一 上 神 社

鎮座 大井和村大字両山寺字二上山

伊弉諾命、伊弉册命、倉稻魂命、大物主命、奥津彦命、奥津姬命

御事歴 伊弉諾命 ○伊弉册命は獨化の大神にして父母の大神がない。天地開闢の時渾

渾たる一氣あり。鶏の子の如し。清めるは上りて天となり、濁れるは止りて地

とある。その中に生れ坐した二柱の神を伊弉諾命、伊弉册命と申上げ、夫婦の初めの神して所謂天神七代の七代目の神であつて、淤母陀琉神 訶志古泥神に次で生れ給ひ、地神初代とす。天津神（天御中主神 高皇産靈神 神皇産靈神 味葦加備比古遲神 天常立神の五柱の大神別天神と云ふ）の命奉じて、此國と造り固め成さんとして、天瓊鉾をもちて、天浮橋に立ち、滄海を探り於能碁呂島を得、二神この島に八尋殿を建て夫婦の道を初め給ふ。かくて淡路島を始め四國、九州、壹岐、對馬、隱岐、佐渡、大倭豊秋津島等を生み次で日月星辰、山川草木、水火金土に到る迄あらゆるものを生み造り給ひて我國の基を開かれた。伊弉册命は火産靈神を生み給ひて崩御し給ふ。出雲國と伯耆國との境界の比婆山に葬り奉る。（書紀には木ノ國熊野之有馬村に坐とあり）其後伊弉諾命は

天照大神、月讀大神、素盞鳴神の三貴子を生み坐しぬ。淡路國官幣大社伊弉諾神社及び近江國官幣大社多賀神社にこの二神を祀る。○倉稻魂命（厨神社參照）
○大物主命（倭文西村八幡神社參照）○奥津彦命 奥津姫命（龍山村八幡神社參照）
◆作陽誌神社部に曰く「八頭神社（現今二上神社）（中畧）祭る所武甕槌命云々」とある。現今前記の二神奉祀す。何れか不詳である。

境内神社

- 稻荷神社 祭神 倉稻魂命（厨神社參照）
- 倉稻魂神社 祭神 倉稻魂命（厨神社參照）
- 靈神社 祭神 高靈神（貴布禰神社參照）
- 白山神社 祭神 伊弉册命（本社參照）
- 加茂神社 祭神 別雷神 亦鴨若雷命と申す。大年神の御子大山咋神の

御子である。山城國風土記に曰く「賀茂建角身の子玉依姫命、石川の瀬見の小川に遊びする時に丹塗の矢、川上より流れ來り、乃ち其矢を床邊にさし置き、それより遂に孕みて男子を生み給ふ。即ち賀茂別雷命なり云々」と（稻岡神社並賀茂神社參照）

郷社

和田神社

鎮座

祭神

- 鶴田村大字和田南字武男山鶴ノ嶺
- 品陀和氣命、白山姫命、大己貴命、素盞鳴命、豐玉彦命、豐玉姫命、倉稻魂命、菅原神、彦火火出見命、元玉見命、高靈命、大戸姫命、大田命、大物主命、奥津彦命、奥津姫命、
- 相殿 足仲彦命、息長帶姫命

御事歴

六一

品陀和氣命（久米村八幡神社參照）○白山姫命 石川縣石川郡河内村國幣小社
 白山比咩神社に、菊理媛神及配祀として伊弉諾命 伊弉册命を祀る。同神社の
 祭神を齋祀したものである。この神は白山の絶頂に在つて本宮と稱す。俗に妙
 理權現と云ふ。加賀國一宮である。○大己貴命（錦織神社參照） 豊玉彦命、豊
 玉姫命、海津見命の親子の神である。（諏訪神社並鶴坂神社參照） 倉稻魂命（厨
 神社參照）○菅原神（八出神社參照）○彦火火出見命（日高神社參照）○元玉
 見命（不詳）○高籠神（貴布禰神社參照）○大戸姫命 元の名を奥津比賣命と
 云ふ（龍山村八幡神社參照）○大田命（錦織神社參照）○大物主命（倭文西村
 八幡神社參照）○奥津彦命、奥津姫命（龍山村八幡神社參照）●相殿 足仲彦
 命、息長帶姫命（埴和村八幡神社參照）

境内神社

龍神社 祭神 高籠神（本社參照）

村社

日高神社

鎮座

鶴田村大字和田南、埴和村大字中埴和谷界字和田

祭神

火明神、彦火火出見命、火須勢理命、奥津彦命、奥津姫命
ほあかりのかみ ひこほほで、みのかごと ほすせりのかごと おまつひめのかごと

御事歴

火明命 亦の名を天照國照日子火明命、天日照命、櫛玉饒速日命、膽杵磯丹杵
 穗命と云ふ。天之忍穗耳命の御子、御母は高皇產靈神の御女、天萬栲幡千幡比賣
 命の御子、玉依毘賣命である。古事記神武天皇東征の條に曰く「故爾に邇藝速
 日命參越て、天津神の御子に白さく。天津神御子天降坐と聞きつる故に、追參
 降り來つと申して、即ち天津瑞を献りて仕奉りさ云々」とある。○彦火火出見
 命 亦名を天津日高彦穗々出見命、火遠理命 火夜織命と云ふ。瓊々杵命の御

六三

郷社

鎮座

祭神

御事歴

厨神社

子、御母は木花之開夜毘賣命である。(鶴坂神社参照) ○火須勢理命 亦の名を
火照命 火進命 火須曾理命 火須佐利命と云ふ。瓊々杵命の御子、即ち火火
出見命の兄神である。○奥津彦命 ○奥津姫命 (龍山村八幡神社参照)

弓削町大字上弓削字ダイナル

宇氣母智神、綿津見命、素盞鳴命、大國主命、田心姫命、湍津姫命、市杵島
姫命、軻遇突智命、高禰神、大山祇命、菅原神
宇氣母智神 亦の名を豊宇氣毘賣神 (豊受姫神) 豊遠逆比賣神 登由宇氣神
大宜都比賣神 大御食都神 宇迦之御靈神 若宇迦能賣神 大宇迦神 豊字賀
能賣神と云ふ。伊弉諾命の御孫稚産靈命の御子であつて食物の神である。天照

大神天石窟より出させし時、大氣津比賣命に食物を乞ひ給しに、大氣津比賣命、
鼻口及び尻より種々の味物を取り出し調理して奉られたので、素盞鳴命はこれは
穢れたるものを奉ると思召して劍を抜き大氣津比賣命を殺し、天照大神に具に
その事由を申し上げられた。時に天照大神又素盞鳴命の荒き振舞を怒り給ひて、
天熊之大人をして、看せしめ給ふ。時に其の殺されし神の身に生れたる物は、顧
上に粟、眉上に鬮と桑木、目に稗、腹に稻種、陰に麥及大豆、小豆、頂に牛馬
等であつた。天熊之大人は悉く取り持ちて献る時に、天照大神は喜ばれて「是
れぞ宇都志伎青人草(人間)の食ひて活くべきものぞ」と仰せられて、粟稗麥豆
を以て陸田の種子となし、稻を以て水田の種子となし給ふ。(以上は日本書紀
に依れるものである。) (古事記には「故殺され給へる神の身に生れるものは、

頭に鬮生り、二の目に稻種生り、二の耳に粟生り、鼻に小豆生り、陰に麥生り、尻に大豆生り云々」と見ゆ、是則ち五穀及鬮業の源である。茲を以て伊勢に坐す天照大神の神託に依り、人皇二十一代雄略天皇の二十二年九月に丹波國與謝の比沼の眞名井より伊勢國度會郡沼木郷山田原村（皇大神宮を去る西北約一里）に移して奉祀し、之を外宮又は豊受大神宮と尊稱し奉る。又奈良縣官幣大社廣瀨神社に若宇迦乃賣神を祀り又京都府官幣大社稻荷神社に宇迦之御魂命を祀る。皆何れも五穀豊饒を守護し給ふ神である。○綿津見命（諏訪神社参照）○素盞鳴命（錦織神社参照）○大國主命（宮代神社参照）○田心姫命○湍津姫命○市杵島姫命（鶴坂神社参照）○軻遇突智命（小原神社参照）○高靈神（貴布禰神社参照）○大山祇命（山尾神社参照）○菅原神（八出神社参照）

境内神社

外に足仲彦命一座ありしも明細帳書上の節脱漏せり

齋神社 祭神 天熊之大人 天熊之大人は父母の系統詳かでない天照大神の使として大氣都姫命の献る五穀を得たる事本社に條に見えたるに同じ
 五行神社 祭神 五行祖神 御事歴不詳。國史大辭典には「五行神は句句廻馳神（木神）軻遇突智神（火神）埴安姫命（土神）金山彦命（金神）罔象女神（水神）を云ふ」とある。

- 柊神社 祭神 素盞鳴命（錦織神社参照）
- 八坂神社 祭神 素盞鳴命（同上）
- 北野神社 祭神 菅原神（八出神社参照）
- 大家神社 祭神 素盞鳴命（錦織神社参照）

村社

高下神社 祭神 素盞鳴命 (同上)
 長峪神社 祭神 素盞鳴命 (同上)
 宮前神社 祭神 素盞鳴命 (同上)
 森神社 祭神 大國主命 (宮代神社參照)
 素 鷲 社 神

鎮座

弓削町大字松字宮山

祭神

建速須佐之男神

相殿

大穴牟遲神、少毘古那神、

御事歴

建速須佐之男神 (錦織神社參照) ● 相殿 大穴牟遲神 (宮代神社參照) ○
 少毘古那命 (少彦名神社參照)

境内神社

御先神社 祭神 保食神 (厨神社參照)
 伊勢神社 祭神 天照大神 (鶴坂神社參照) ○ 豊受大神 (厨神社參照) ○ 伊

弉諾命 伊弉册命 (二上神社參照) ○ 大山祇命 (山尾神社參照) ○ 軻遇突智命 (小原神社參照) ○ 保食神 (厨神社參照)

鹽隨神社 祭神 猿田彦命 亦の名を大土神 大土之御祖神 佐太之大神と申す。

素盞鳴命の御子大年神の御子、御母は産靈神の御子、枳佐具比賣命である。邇々杵命、天下に天降の時に先驅の者還つりて曰く「天八衢は鼻の長さ七咫背の長七尺餘の神居て、上は天の原を光らし、下は葦原中國を照らし、眼は八咫鏡の如し」と。そこで天宇受賣神を遣はして何神なるかを詰問せしめられると、八衢の神答へて申さく「吾は國津神猿田彦神なり。今天津神の御子天降り座す

と聞きて、御迎ひに参り居れり」と。宇受賣命又問ふ。「汝先行するか。又吾れ先行すべきか」。答へて申す。「吾先導すべし」。宇受賣命又問ふ。「汝は何處に到るか、皇美麻命は何處に到りますか」。天津神の御子は筑紫の日向の高千穂の檮觸之峰に到坐さん。又吾は伊勢の狭長田伊須受之川に到らん。吾を紹介したるは汝なり。故に吾を送り給へ」と答ふ。宇受賣命はその由を復命す。かくて邇々杵命は恙なく猿田彦命の言の如く高千穂の峰に天降給ふ。この故を以て、宇受賣命を猿田女君と云ひ、又猿田彦命を道祖神と申のである。則ち所々の道傍に祀れる「賽神」はこの神を祭神として、旅行者の安全を守護する意より起つたものである。宮城縣鹽竈町ある國幣中社鹽竈神社祭神は武甕槌神（左宮）經津主神（右宮）鹽土老翁神（別宮）三神である

七〇

村社
鎮座
祭神

多賀神社 祭神・伊弉諾命（二上神社参照）
三種神社 祭神 事代主命（志呂神社参照）
熊野神社 祭神 伊弉册命（二上神社参照）
稻荷神社 祭神 宇賀之御魂神（厨神社参照）
摩賣神社 祭神 猿田彦命（本社同上）○奥津彦命（龍山村八幡神社参照）
森神社 祭神 大國主命（宮代神社参照）
天満神社 祭神 菅原道真公（八出神社参照）
波多神社
弓削町大字羽出木字東山
速玉之男命

七一

相 殿

伊弉那美命 廣泉津事解之男命

七二

御事歴

本社祭神は元來中央伊弉那美命左速玉之男命右黃泉津事解之男命今一座意富加牟都美命ありしも脱漏とかり尙明細帳書上の際誤つて二神を相殿としたものである。○速玉之男命 ○黃泉津事解之男命 亦の名を大事忍男神と云ひ、伊弉諾命の御子である。伊弉冊命、火の神を生み美蕃登を炙へて崩御あり。後に黃泉津國に出で行き給ひしを伊弉那岐命御後を慕ひて追行き、伊弉那美命と見給ひしに病に罹り御體には宇士がわいて醜くかつたので非常に恐れて逃げ還へらんとし給ひし時に、伊弉那美命「汝已に我情を見つ、我復汝の情を見ん」と白し給ふ。時に伊弉那岐命も慙ぢ給ひて直ちには歸へらずして、「族離れん又族に負けし」と白して則ち夫婦告別の辭を述べて、唾を吐き給ふ時に生れ給ふ神

が速玉之男命、次に之を拂ひます時に生れ給ふ神が、黃泉津事解男命の二神である。茲に伊弉那美命これを心善しとせずして、即ち豫母都志許賣を遣はして追はしむ。伊弉那岐命は逃れつ、黒御髪を取りて投棄ち給へむ蒲子となる。醜女これを食ふ間に逃げ行きつ、右の御美豆良の櫛を投げ給へば等とある。醜女之を食ひ内に逃げ行く。且つ後には八雷神に千五百之黃泉軍を副へて追はしむ。この時黃泉比良坂の坂本に到り、其の坂本に在る桃の實を三箇を取りて待ち撃ち給へば、悉く逃亡して終つた。茲に於て伊弉那岐命は桃に告げ給はく「汝は吾を助けしが如く葦原の中國にある宇都志伎青人草（人間）の苦瀬に陥ちて患ふる時に助くべし」とて意富加牟都美命と申す名を賜はつた。かくて伊弉那美命は、自ら追ひきまして千引の岩を黃泉比良坂に引塞へて、各相對立して

七三

、事戸を渡し、遂に男神は現國に還り給ふ事となつた。故に速玉之男命、黄泉津事解男命、及び意富加牟豆美命は災厄、病魔を解除し給ふ神である。○伊那那美命(二上神社参照)

境内神社

八幡神社 祭神 譽田別命(久米村八幡神社参照) ●相殿 息長帶姫命(井和村八幡神社参照)

大日靈神社 祭神 大日靈命(鶴坂神社参照) ○神宮仕靈 御事歴不詳。社記に「波多神社御鎮座の時、社殿建築及勸請に奉仕したる神官の靈まり云々」こある

稻荷神社 祭神 倉稻魂命(厨神社参照)

素盞鳴神社 祭神 素盞鳴命(錦織神社参照) ○奥津彦命(龍山村八幡神

社参照)

村社

熊野神社

鎮座 弓削町大字鹽之内字下モ

祭神 伊弉册命

御事歴 伊弉册命(二上神社参照)

境内神社

森神社 祭神 句句迺遲命(加美村八幡神社参照)

若宮 祭神 大日靈貴命(鶴坂神社参照) ○素盞鳴命(錦織神社参照)

稻荷神社 祭神 倉稻魂命(厨神社参照)

郷社

塚角神社

鎮座 吉岡村大字塚角字上山

祭神

素盞鳴尊、譽田別命、保食神、大國主神、速玉之男命、大山祇命、大穴牟遲命、脚摩乳、須勢理賣命、火産靈神、奥津彦命、奥津姬命、天照大神、天御中主神、高皇産靈神、神皇産靈神、倉稻魂命、海童神、言代主命、菅原神、軻遇突智神、岐神、八幡大神、伊邪那美命、事觸之男命、少毘古那命、手摩乳造化三柱神、大山咋命、

御事歴

素盞鳴尊（錦織神社参照）○譽田別命（久米村八幡神社参照）○保食神（厨神社参照）○大國主神（宮代神社参照）○速玉之男命○事觸之男命（波多神社参照）○大山祇命（山尾神社参照）○大穴牟遲命（宮代神社参照）脚摩乳○手摩乳 此二柱神は、稻田宮主須賀之八耳神、稻田宮主簀狭之八耳神と云ふ。大山津見神の御子である。素盞鳴命、出雲國簸之川上に到り給ひし時、老夫

と老女と少女とありて泣き居れり。命其名を問ひ給へば「吾は足名椎妻の名は手名椎女の名は眞髮觸寄稻田比賣」と答ふ。茲に素盞鳴命はこの姫を取らんとする八俣蛇を斬殺して姫を助け其の効によりて姫を娶る。須賀の地に宮を造り移りて住み給ふ。その足手椎、手名椎二神を喚して、汝等は我兒の宮の首となれ」とて稻田宮主神と云ふ名を賜ふ。素盞鳴命と稻田姫命の御子八幡士奴美神の孫則ち大國主神である。（錦織神社参照）○須勢理比賣命（西幸神社参照）○火産靈神 軻遇突智命（小原神社参照）○奥津彦命 奥津姬命（龍山村八幡神社参照）○天照大神（鶴坂神社参照）○天御中主神 高皇産靈神 神皇産靈神（北山神社参照）○倉稻魂命（厨神社参照）○海童神（諏訪神社参照）○言代主命（志呂神社参照）○菅原神（八出神社参照）○岐神（西幸神社

參照) 八幡大神(畷田別命) 上に同じ ○伊邪那美命(二上神社參照) ○少
毘古那命(少彦名神社參照) ○造化三柱神(天御中主神、高皇產靈神、神皇
產靈神) 上に同じ ○大山咋神(宮代神社參照)

八幡神社

村社

鎮座

吉岡村大字藤原字池ノ脇

祭神

畷田別命

相殿

息長帶姫命

御事歴

畷田別命(久米村八幡神社參照) ○息長帶姫命(坪和村八幡神社參照)

境内神社

宮脇神社 祭神 玉依姫命、は神代に三神あり、則ち高皇產靈神の御子、
天萬耜幡千幡比賣命の御子、玉依毘賣命あり。天忍穗耳神の後神である。次

に高皇產靈神の御孫健角身命の御子、玉依姫命あり。是は火雷命之御魂は丹
塗矢に化りて御合坐して生みませる神が、別雷命である。次は大綿津見命の
御子玉依毘賣命、これは鵜草葺不合命の後神で、則ち神武天皇の御母神であ
る。當社祭神はその何れなるや明かならず(加茂神社參照)

村社

高山神社

鎮座

吉岡村大字山之上字天王

祭神

素盞鳴命

御事歴

素盞鳴命(錦織神社參照)

村社

住吉神社

鎮座

吉岡村大字大戸上字住吉

祭神 中筒之男命

八〇

相殿 上筒之男命、底筒之男命

御事歴 祭神中相殿は、本位の祭神なるを明細帳書上の際に誤りて相殿とあるものなりと云ふ。○祭神三柱の神は、伊弉諾命の御子である。伊弉諾命が泉津國より還へりて、日向の國橘の小門の阿波岐原に於て、身褌祓をし給ひし時、水底に滌ぎ給ふ時に生を給ふ神を、底津綿津見神、(底筒之男命)水中滌ぎ給ふ時に生を給ふ神を、中津綿津見神(中筒之男命)水上に滌ぎ給ふ時に生を給ふ神を、上津綿見神(上筒之男命)と云ふ。此三柱神は海中を守護し、航海を司り給ふ、則ち船玉神である。

境内神社

國司神社 祭神 大國主命、(宮代神社参照) ○火産靈神(小原神社参照)

村社 定宗神社

○奥津彦命 奥津姫命(龍山村八幡神社参照) ○大山津見命(山尾神社参照)

鎮座 吉岡村大字定宗字南ノ谷

祭神 素盞鳴命 火産靈神 奥津彦命 奥津姫命 大山津見命

御事歴 素盞鳴命(錦織神社参照) ○火産靈神(小原神社参照) ○奥津彦命 奥津姫命

(龍山村八幡神社参照) ○大山津見命(山尾神社参照)

郷社 八出神社

鎮座 福岡村大字八出字宮廻り

祭神 菅原神

八一

御事歴

八二

菅原神 御名は道眞、幼名を阿呼と云ふ。是善の御子其の先祖天穗日命の十二世の孫可美乾飯根命（うましほといまねのみこと）の七世の孫、大保度連の後胤である。幼少にして穎悟貞觀中文章得業生となり、尋で對策に及第し玄蕃助となり、少内記に任じ、十六年兵部少輔に陞り、元慶の初め式部少輔に轉じ、文章博士を兼ねぬ。仁和中讃岐守に遷り、寛平三年藏人頭に任ず。蓋し此時に當り、宇多天皇藤原氏の權を除かんとするの御心あり、密かに道眞の用ふるに足るを看破し、引いて與黨となさんとし、累りに其官位を進められたのである。四年從四位下に陞り、左京太夫を兼ねぬ。天皇敦仁親王を立て、太子となし、獨り道眞と議して、他人は參與する者があつた。以て信任の厚きを知る事ができる。五年參議に任じ、式部大輔、左大辯、勘解由長官を兼ね、又春宮亮を兼ねぬ。尋で女衍子を入れて女御と

なす。明年遣唐使を命せられたるも、在唐の僧中瑾より唐國擾亂の報ありしため朝議の結果遣唐使中止となる、以後遣唐使停廢に歸す。此年道眞年五十歳。七年中納言にあり從三位に叙し、八年民部卿を兼ね、九年大納言となり、右大將を兼ね、氏の長者とある。同年天皇位を皇太子に讓る。醍醐天皇これである。七月三日太子元服即日即位し給ふ。藤原時平大納言と道眞とに命じて幼主を輔けて機務を參決せしめられた。而して禪讓の事道眞の贊助に由る處が多かつたので醍醐天皇特に之を重んじ給ふ。尋で正三位に叙し、中宮太夫を兼ね内覽の宜旨を蒙る。昌泰二年時平左大臣に道眞右大臣に進む。相並て政治を行ふ。道眞の寵愛日に厚く禁中の内宴毎に之に預る。三年天皇朱雀院に朝し秘かに宇多法皇と謀る所あつて、道眞を召して「天下の政郷宜しく之を專決して奏すべし」

八三

と内論し給へるも、固辭して敢へて受けなかつた。道眞は位將相を極め、又治體に諳練し裁決流る、如くで紀綱振肅した。時平常に寵任の自己に勝れるを嫉み且つ其の密論の事を聞くに及びて彌々悦ばず。源光、藤原定國、藤原菅根等の道眞に憾ある者と協力して排陥せん事を圖る。時平密かに奏上して曰く「道眞異圖あり、陛下を廢して齊世親王を立てんとす」と（道眞の女親王に嫁す）。天皇春秋に富み位に在る事日尙は淺くので遂にはの言に惑ひ給ふ。延喜元年正月從二位に叙す。俄かに太宰權師に左遷する。源善次以下緣座する者多し。道眞憂悶やる方なく和歌を以て法皇に衷訴す。法皇大に驚いて天皇に見えて罪を赦させんとて清涼殿に幸す。菅根等宮門を鎖して入れ奉らず依て空しく還御あり。道眞男女二十三人あり皆處を異にして貶黜にせられる。只僅かに少男女の

隨行を許さる。大宰府にては門を閉ぢて出でず。文墨に託して月日を送り三年二月貶所に薨す年五十九歳筑前安樂寺葬る。文章和歌詩書を能くし殊に筆道に於ては空海、小野道風と共に三聖と稱せらる、其後、時平、菅根相繼いで歿し、加ふるに京都に火災數度起り、文獻太子亦暴かに薨す。道眞の崇りとます。天皇深く悔悟し給ひて延長元年本官に追復し正二位を贈り、左遷文書其他道眞に關するものを皆焚失せしめらる。一條天皇正曆四年左大臣正一位を贈り尋で大政大臣を贈らる。天曆年中民間祠を北野に建立して道眞の靈を祀り稱して天滿天神と云ふ（今官幣中社北野神社之れなり）

境内神社

龜神社 祭神

伊弉諾命

●相殿

伊弉册命

（一上神社参照）

考松神社 祭神

渡會春彦

大日本人名辭書に

「白太夫、本姓は松本名は春彦伊

勢國渡會の人にして大神宮の仕人なり。延喜三年二月二十五日菅公筑紫に薨せ
 るや、春彦侍して此に在り。公の遺命を奉じ息高視公の權守となりて土佐に左
 遷せるを尋ねんと欲し、間關險路を辿り、老脚蹠跚として漸く土佐に入りて大
 津に着せり。當時は大津近傍高知市街等一圓の海ありしを以て大津より高視の
 在所潮江村に渡らんと欲せば、險惡の海上二三里を航せざるを得ず。時人々以
 て之を觀れば大海を隔てたる思ありしなるべし。春彦已に大津に至る。日暮れ
 足疲る。一精舎に就きて一夜の宿を借る。翌日病起り遂に起たず。時に年七十
 九遺骸を大津村山崎山に葬る」と見ゆ。本社に縁由深き夫人である
 稻荷神社 祭神 倉稻魂命（厨神社參照）
 三穗津姫神社 祭神 三穗津姫命（稻岡神社參照）

村社

鎮座祭神

福岡村大字大谷杉字山下
 伊弉那岐命 伊弉那美命

青木神社

八幡神社 祭神 品陀和氣命（久米村八幡神社參照）
 荒神社 祭神 奥津彦命 奥津姫命（龍山村八幡神社參照）
 終神社 祭神 天兒屋根命（神葉神社參照）
 上野神社 祭神 國常立命（森神社參照）
 北尾神社 祭神 素盞鳴命（錦織神社參照）
 大山神社 祭神 大山祇命（山尾神社參照）
 佐田神社 祭神 猿田彦命（索鶴神社參照）

御事歴 伊邪那岐命 伊邪那美命 (二上神社參照)

村社 森 神 社

鎮座 福岡村大字横山字宮ノ段

祭神 手力雄命 國常立命

御事歴 手力雄命 (門神社參照)

○國常立命「天地開闢の初め天地の中に一物成つた、
狀は葦牙の如くで便ち神と成る。之れを國常立尊と云ふ、次に國狹槌尊、次に
豐斟淳尊が生れられた」と書紀に見ゆ。舊事記には「一代天御中主尊 亦云天
常立尊 可美葦牙彦舅尊。二代國常立尊 亦云國狹槌尊 亦云國葉木
國尊云々」と見ゆ。古事記には「天御中主神、高皇產靈神、神皇產靈神、宇
麻志阿斯訶備比古遲神、天常立神の五柱を別天神と云ひ、次の國常立神以下伊

并諾伊弉册神迄を神代七代と云ふ」と見ゆ。要するに國常立命は、國即ち地球
の靈魂の大神にして最も尊き神である。

境内神社 天神社 祭神 天穗日命 (境神社參照)

荒神社 祭神 素盞鳴命 (錦織神社參照)

村社 八代神社

鎮座 福岡村大字横山字龍ヶ爪

祭神 素盞鳴命

御事歴 素盞鳴命 (錦織神社參照)

村社 高富神社

鎮座 福岡村大字小桁字城富都

祭神 大山祇命

御事歴 大山祇命 (山尾神社参照)

境内神社 荒神社 祭神 素盞鳴命 (錦織神社参照)

稻荷神社 祭神 宇賀之御魂命 (厨神社参照)

山神社 祭神 大山咋命 (宮地神社参照)

村社 金屋神社

鎮座 福岡村大字金屋字宮ノ前

祭神 猿田彦命

御事歴 猿田彦命 (素鵝神社参照)

境内神社 伊勢神社 祭神 天照大神 (鶴坂神社参照)

村社 熊野神社

荒神社 祭神 須佐之男命 (錦織神社参照)

鎮座 福岡村大字荒神山字城山

祭神 伊弉册命

相殿 素盞鳴命

御事歴 伊弉册命 (二上神社参照) ○素盞鳴命 (錦織神社参照)

境内神社 稻荷神社 祭神 倉稻魂命 (厨神社参照)

村社 多禰神社

鎮座 福岡村大字種字宮山

祭神 天兒屋根命

相殿 譽田別命 素盞鳴命

御事歴 天兒屋根命 (榊葉神社參照) ●相殿 譽田別命 (久米村八幡神社參照)

素盞鳴命 (錦織神社參照)

村社 押淵神社

鎮座 福岡村大字押淵字清水前

祭神 大國主命

相殿 素盞鳴命

御事歴 大國主命 (宮代神社參照) ○素盞鳴命 (錦織神社參照)

境内神社 興津神社 祭神 火産靈神 (小原神社參照) ○興津彦命 興津姬命 (龍山村八幡神社參照)

村社 佐良神社

鎮座 佐良山村大字一方字且徳寺

祭神 佐波良神 素盞鳴命 天日鷲命 大國主命 經津主命 大山祇命 火産靈神

倉稻魂命 與津彦命 與津姬命 猿田彦命 彌津波能賣命 譽田別命 宿奈神

伎波豆神 乎磨神 清磨神 天穗日命 和田津見命

御事歴 佐波良神 伎波豆神 宿奈神 乎磨神 清麻呂神は垂仁天皇の皇子鐸石別命八

世の孫古麻佐の御子である。備前、美作兩國の國造にして當地即ち佐良郷を食

む。依つてこの地に住む。御子伎波豆、孫宿奈、曾孫乎磨、彌曾孫清磨の四世

共に兩國を造たりし事日本後記卷八二月二十一日の條に見えて居る (一本に伎

波豆は波伎豆とある) 曰く

贈正三位行民部卿兼造宮大夫美作備前國造和氣朝臣清麻呂。本姓磐梨別公。有京人也。後改姓藤原和氣真人。清麻呂人高直匪躬之節。與姉廣虫共事高野天皇（稱德）並蒙愛信。任右兵衛少尉。神護初授從五位下。遷近衛將監。特賜封五十戶（中略）此時僧道鏡得幸於天皇。出入警蹕。一擬垂輿號曰法王。大宰主神習宜阿蘇麻呂媚事道鏡。矯八幡神教言。令道鏡即帝位。天下大平。道鏡聞之。情喜自扞天皇召清麻呂於牀下。曰。夢有人來稱八幡神使云。為奏。專請尼法均。朕答曰。法均軟弱難堪。遠路其代遣清麻呂。汝宜早參聽神之教。道鏡復喚清麻呂。募以大臣位。先是路真人豐永為道鏡之師。語清麻呂云。道鏡若登天位。吾以何面目可為其臣。吾與三子共為今日之伯夷耳。清麻呂深然其言。常懷致命之志。往詣神宮。神託宜云々。清麻呂祈曰。今大神所教。

是國家之大事也。託宣難信。願示神異。神即忽然現。形其長三丈許。色如滿月。清麻呂消魂失度。不能仰見。於是神託宣。我國家君臣分定。而道鏡悖逆無道。輒望神器。是以神靈震怒。不聽其所。汝歸如吾言。奏之。天之曰。嗣必續皇緒。汝勿懼。道鏡之怨。吾必相濟。清麻呂歸來奏如神教。天皇不忍。誅為因幡員外介。尋改姓名。為別部穰麻呂。流于大隅國。尼法均還俗為別部狹虫。流于備後國。道鏡又追將殺清麻呂於道。雷雨晦暈未即行。俄而勅使來。僅得免于時。參議右大辨藤原朝臣百川愨。其忠烈。便割備後國封鄉廿戶。送充於配處。寶龜元年。聖帝（光仁）踐祚。有勅入京。賜姓和氣朝臣。復本位名（中略）清麻呂之先出自垂仁天皇。子鐸石別命。三世孫弟彥王。從神功皇后征新羅。凱旋明年。忍熊別皇子有逆謀。皇后遣弟彥王於針間吉備堺山。誅之。以從軍功。封藤原縣。

因家焉。今分爲美作備前兩國也。高祖父佐波良。曾祖父波伎豆。祖宿奈。父乎麻呂墳墓在二本郷者拱樹成林。清麻呂被竄之日爲人所伐除歸來上疏陳狀詔以佐波良等四人並清麻呂爲美作備前兩國々造。云々とある

○素盞鳴命（錦織神社參照）○天日鷲命高皇產靈神の二世の孫天手力男命の御子である。天照大神天岩窟に幽居し給ひし時天津神の命以て、思兼神の思慮に依て太玉命は諸部を率ゐて和幣を造り、石凝姥神は日像の鏡を鑄り、長白羽神（日鷲の御子）麻を植ゑて青和幣を造り、天日鷲神穀木の種を植ゑて白和幣を造り、天羽槌雄神は（日鷲神の御子）文布を織り、櫛明玉神は御統玉を造り其他種々の祭器を作りて石窟の前に献る（櫛葉神社參照）後父神武天皇の御代に御孫をして木綿及麻、織布を造らしむ、天富命はこの部属を率ゐて阿波國に行き

境内神社

穀木麻の種子を殖ましたのでこの地の郡名を麻殖と云ひ、徳島縣徳島市國幣中社忌部神社には天日鷲命を祀つてある。○大國主命（宮代神社參照）○經津主命（刀入神社參照）○大山祇命（山尾神社參照）○火産靈神（小原神社參照）○倉稻魂命（厨神社參照）○奥津彦命 奥津姫命（龍山村八幡神社參照）○猿田彦命（素鵝神社參照）○彌津波能賣命（鶴坂神社參照）○譽田別命（久米村八幡神社參照）○天穗日命（境神社參照）○和田津見命（諏訪神社參照）
和歌神社 祭神 住吉大神は底筒之男命、中筒之男命、表筒之男命の三柱の大神である。（住吉神社參照）つかくて住吉大神 嚴島大神 柿本人麻呂の三柱と和歌の三神として歌人の祀れる神である。案ふに此神社は清和天皇貞觀六年大嘗祭の時美作國が主基の國になつた其時の風俗歌に「美作や久米の佐良山さら

く「我名はたぐじ萬代迄に」と云ふのがあるが此時この佐良の地が名所として詠せられたので遂に此歌神の宮を建てたのであると思ふ。○軻遇突智神（小原神社参照）○天御中主命（北山神社参照）○少彦名命（少彦名神社参照）○鳴雷神 天兒屋根命の御子にて天忍雲根命である。御井神、水波能賣神と共に井戸に齋祀する神にして水を司り給ふ。○保食神（厨神社参照）○天鈿女命（倉尾神社参照）○國常立命（森神社参照）○國狹土神 書紀には天地開闢の初めに國常立神の次に國狹土神あり。古事記には、大山津見命 野稚神の二神山野に因て持ち別けて生れます神天之狹土神次に國の狹土神あり。本神社の祭神は國常立神の次にあるを見れば前者であらう。所謂天神七代の内第二代目の神である。○高彦根命 亦の名を味鋹高日子根神と云ふ。大國主命の御子、御母

は多紀理毘賣命である。大國主命の國譲りの時、天津神の使者天若彦命は故ありて使命を果さず。遂に天津神の返矢に當りて崩せらる。高天原に在りし若彦の父天津國玉神及其妻子降り來て天若彦の死骸を柩に納め喪屋を造りて哭く。この時天若彦の親友たりし高彦根命來りて喪を弔ふ。時に若彦の父及妻子等哭いて曰く「我が子は死なずてありしか」と高彦根命の手足に取りすがる。その過もし故は二神の容貌がよく似て居つたためである。高彦根命は大に怒つて曰く「我は愛友の故に弔ひ來しに何ぞ、我を穢き死人に比す」と。即ち劍を抜いてその喪屋を斬伏せ足を以て厥放ち給ふ。これが落ちて山とあつたのが今美濃國藍見河の河上の喪山であると云ふ。然して高彦根命は怒りて飛び去り給ふ。この神を二名一言主神と申し、雄略天皇四年葛木山に顯はれ給ひし事あれ共省

畧す。息長帶姫命（埴和村八幡神社参照）

郷社

鎮座 祭神

加美村大字西幸字里公子

少彦名命、大穴牟遲命、須瀨理姫命、大山祇命、奥津彦命、句句態智命、八衢彦命、八衢姫命、奥津姫命、久名戸神、軻遇突智命、菅原道真卿、少彦名命（少彦名神社参照）

御事歴

○大穴牟遲命（宮代神社参照） ○須瀨理姫命亦の名を若須勢理毘賣命と云ふ。素盞鳴命の御子又は大年神の御子ともある。大穴牟遲命の後神である。大穴牟遲命泉津國に到り坐す時に素盞鳴命の御女須勢理毘賣命出で見給ひて我家に還り入りて、其の父に甚だ美はしき神さましつと云ひ給へとその大神へ見て「こは葦原色許男と云ふ神である」と宣ひて即ち

家内に喚入て蛇室に寝ねしめられた。茲にその妻の須勢理毘賣命は蛇の比禮を授けてその蛇咩はむとすればこのヒレ^①を持って三度打拂へよと教へられ、かくして漸くその災危を免る。又吳公^②と蜂の室に入れると、吳公と蜂のヒレを授け、又鳴鏑の箭を大野原に射入れて後拾ひこよと命せらる。その時にこの野原に火を放ちて焼殺さんとする時に鼠出で來りて其處に洞穴のある事を教ふ。依つてその穴に入りて火災の危を遁る。又鼠はかの鳴鏑の矢を咩持ち來りて奉る。次で八田間の大室に入れ素盞鳴命の頭の虱を取らしむ。その時須勢理毘賣命は木の實赤土を以て謀りて父大神の心に愛を思しめ、大神心能く寝ねましつる間に大神の髪を室の椽に結著け室の戸に石を取塞へて、其妻を負ひて大神の生太刀、生弓矢及び天詔琴を取持ちて、逃いで坐す時、大神驚き追ひきて泉津比良坂

より呼びて謂曰く「汝其持てる生太刀、生弓矢を以て汝の兄弟を坂之御尾に追伏せ河の瀬に追拂ひ、大國主神亦宇都志國玉神となりて、我女須勢理毘賣命を嫡妻となせ」と即ち大穴牟遲命亦名を葦原色許男と云ふ。(宮代神社參照)の後となり給ふ、殊にこの神慮により大國主命の災危を逃れ且又國土經營に預りて力があつた。○大山祇命(山尾神社參照) ○奥津彦命 奥津姬命(龍山村八幡神社參照) ○句句能智命(加美村八幡神社參照) ○八衢彦命 八衢姬命 二神を合せて道反大神、亦塞坐豫美戸大神と申す。次に久名戸神亦名來名戸之祖神衝立船戸神岐神と云ふ。伊弉諾命の伊弉册命に對して事戸を渡される時伊弉册命曰く「愛する夫の君がかく仰せ給はば汝の國の人を一日に千人を絞め殺さん」と伊弉諾命曰く「汝然かするならば吾は一日に千五百の産家を立てん」と。

かく宣ひて其投げ棄て給ひし御杖に成れる神これが即ち來名戸之祖神と云ひ。黄泉の坂に置きし石は道反大神亦八衢比古、八衢比賣神と云ふ。この三神は則ち「サイの神」と申して災危を拂ふ神である。(波多神社參照) 軻遇突智命(小

原神社參照) ○菅原道真卿(八出神社參照)

境内神社

- 胸像神社 祭神 田心姫命 (鶴坂神社參照)
- 綿津見神社 祭神 線津見命 (諏訪神社參照)

村社

諏訪神社

鎮座

加美村大字原田字日南山

祭神

- 健御名方命、伊弉册命、速玉之男命、泉津事解之男命、宇迦之御魂命、中津少童命、底津少童命、表津少童命、猿田彦命、天羽槌雄命、天宇受賣命、天照

相

大神、おほまひ 太王神、きんたまのみかみ 奥津彦命、おくつひこのみこと 天兒屋根命、あまのこやねのみこと
殿、はなだちのふもと 譽田別命

御事歴

健御名方命 亦の名を御穂須々美命 建御名方富命と云ふ。大國主神の御子御母は高志國の意支都久辰爲命の子俣都久辰爲命之子沼河比賣命（亦奴奈宜波比賣命）亦この大神の后神を八坂刀賣命と云ふ。かつて大國主命の國土奉獻の時建甕槌命 經津主命の二神天津神の御使として出雲國到りて大國主命を説きて葺原中國を皇御孫命に奉らしむ。その時御子八重事代主命初め諸神は快諾し給ひしに、ひとり健御名方命のみ従はずして却つて、力競べをせんとて反抗された。然し二神の勢に敵せず、逃げ去りて信濃國諏訪に到りて遂に降を乞ひて國を獻り、且つ御尾先の守護神とある。依てこの地に命を祀りて諏訪神社と稱す。今

林 野 田

の官幣中社諏訪神社上社は之である。當社は其分靈を奉祀せるものである。○伊弉册命（二上神社参照）○速玉之男神 泉津事解之男神（波多神社参照）宇迦之御魂命（厨神社参照）○中津少童命（中津錦津見命）○底津少童命（底津綿見命）表津少童命（上津綿津見命）伊弉諾命の御子である。命が泉津國より還へり、日向の橘の小門の檉原にて中瀬津瀬に下り立ち身潔きし給ふ時に、水底に濺ぎ給ふ時に、底津綿津見神 底筒之男神、中に濺ぎ給ふ時に 中津綿津見神 中筒之男神 水上に濺ぎ給ふ時に 上津綿津見神 上筒之男神の六柱生れ坐す。この綿津見神三柱を稱して大綿津見神と云ひ大海原を司り、又三柱の筒之男神を住吉の三前の大神と云ひ、海上則ち航海を守護し給ふ。船玉命は之である。（吉岡村住吉神社参照）又大綿津見神を豐玉比古命とも云ふ。（日高神社

村社 鎮座

八幡社

加美村大字新城字中畵

參照) ○猿田彦命(素鵝神社參照) ○天羽穗雄命(倭文神社參照) ○天宇受賣命(倉尾神社參照) ○天照大神(鶴坂神社參照) ○太玉命 亦名を天太玉命 天櫛玉命 天神玉命 忌部神と云ふ。高皇產靈神の御子である。后神は天比理力咩命と申す。天照大神の天岩窟に幽居し給ひし時、天兒屋根命と共に神祭を掌り、太玉命は幣帛を司り、兒屋根命は祝詞を奏上せるを初めとして両神相並びて、瓊々杵尊降臨の時も共に供奉し以來朝廷に在りて神祇の事を掌る(柳葉神社參照) ○奥津彦命(龍山村八幡神社參照) ○天兒屋根命(柳葉神社參照) ●相殿 譽田別命(久米村八幡神社參照)

祭神

譽田別命、奥津彦命、句句廻馳命、大山祇命

御事歴

譽田別命(久米村八幡神社參照) ○奥津彦命(龍山村八幡神社參照) ○句々廻馳命 亦の名を木祖神と云ふ。伊弉諾命の御子である。古史成文には「若宇迦能賣神比神之幸御魂神謂三木神久久能智神」とあり。木の靈の神に坐して、家のみならず總て山の木又は木を以て作れるものは皆守護し給ふ。○大山祇命(山尾神社參照)

境内神社

八坂神社 祭神 素盞鳴命(錦織神社參照) ○齋神社 祭神 倭姫命 是伊

久米伊理毘古伊佐知命(垂仁天皇)の御子、御母は比古多多須美知能宇斯王之女、水羽州比賣命である。崇神天皇の六年 八咫鏡を皇女豐鉏入比賣命に命じて、倭の笠縫邑に移し天照大神を奉齋し給へるを次の 垂仁天皇の御世皇女倭

姫命に仰せて伊勢に移し五十鈴川上に祀らしむ、現在の神宮之れである。其後皇太神宮に齋宮として奉仕し給ひ功績顯著にして日本武尊御參拜の節天叢雲劍をお授けありし事などあれど一般の知れる事なれば省畧する。

塞 神社 祭神 猿田彦命 (素鵝神社參照)

須女神社 祭神 宇須女命 (倉尾神社參照)

稻荷神社 祭神 宇賀之御魂命 (厨 神社參照)

村社 小原社

加美村大字小原字王子山

伊弉諾命、伊弉册命、大己貴命、素盞鳴命、譽田別命、菅原神、大國主命

久那戸命、加具津智命、水分命、奥津彦命、倉稻魂命

座鎮 祭神

御事歴

伊弉諾命 伊弉册命 (二上神社參照) ○大己貴命 大國主命 (宮代神社參照)

○素盞鳴命 (錦織神社參照) ○譽田別命 (久米村八幡神社參照) ○菅原神 (八

出神社參照) ○久那戸命 (西幸神社參照) ○加具津智命 亦の名を火雷神、火

迦具土神、火之燒速男神、火之炫毘古神と云ふ。此神天に坐す御靈の名を津速

産靈神と云ひ、則ち天兒屋根命の祖にして延べては中臣、藤原氏等の祖神であ

る。伊弉諾命、伊弉册命の御子である。加具津智命は火を司り給ふ神にして、

京都府愛宕郡愛宕神社に祀る大神である。又家々に齋祀せる隨神は奥津彦命、

奥津姫命とを併せてこの神を祭れるもの多く火を守護し給ふ。○水分命 (北山

神社參照) ○奥津彦命 (龍山村八幡神社參照) ○倉稻魂命 (厨神社參照)

村社 磐筒神社

鎮座

加美村大字頼元字名筒山

祭神

瀬織津姫命、上筒之男命、底筒之男命

御事歴

瀬織津姫命 亦の名を大禍津日神、八十枉津日神、天之麻我都比神、大綾津日神、大屋毘古神と云ふ。伊弉諾命の御子である。伊弉諾命の禊祓ひの時に、上津瀬は瀬急し、下津瀬は弱しとて初めて中津瀬に滌ぎ給ふ時に生れさせる神である。朝廷を初め諸人の罪穢を此神負ひ給ひて大海原に持去り給ふ。故に清祓の事に功德深き神である。上筒之男命、底筒之男命（住吉神社参照）

境内神社

菅原神社

祭神 菅原神

（八出神社参照）

齋神社

祭神

宇迦之御魂命

（厨神社参照）

水分神社

祭神 水分神

（北山神社参照）

綿津見神社

祭神 綿津見神

見神

（諏訪神社参照）

愛宕神社

祭神 迦具土神

（小原神社参照）

素鵝神社

祭神 速須佐之男命

（錦織神社参照）

志女神社

祭神 天思兼神

（神代系圖に天

兒屋根命の別名とある。又古事記には高皇產靈神の子思金神とある。古事記に依ると天照大神か天石窟に幽居の時思金神に思ひ計らしめて種々の幣帛及び祭の式などを定めて大神を慰め奉つて御迎へにあつたので其の功德は大である。

（柳葉神社参照）

○天鈿女命

（倉尾神社参照）

心好神社

祭神 少彦名命

（名神社参照）

山神社

祭神 大山津見命

（山尾神社参照）

金刀比羅神社

祭神

大物主命

（倭文西村八幡神社参照）

聖神社

祭神 聖神

（舊事紀（卷四地

神本紀）に依ると素盞鳴命の御子の大年神が須沼比神の女の伊奴姫を娶つて妻となし五柱の御子を生された。大國御魂神 次韓神 次曾富理神 次向日神 次聖神云々とある。和漢三才圖會（日本和泉國和泉郡）には信太大明神「信太郷に

在り祭神は聖神なり」とある御事歴は詳ならず

稻荷神社 祭神 倉稻魂命 (厨神社参照) 茂理神社 祭神 大田主命 未詳 或は大田命からん。(錦織神社参照) 造化神社 祭神 天御中主神(北山神社参照) ○天照大神(鶴坂神社参照) ○高皇産靈神 神皇産靈神(北山神社参照) 奥津神社 祭神 奥津比古命(龍山村八幡神社参照)

村社

西山神社

鎮座 加美村大字金堀字西山

祭神 素盞鳴命 大山祇命

御事歴 素盞鳴命(錦織神社参照) ○大山祇命(山尾神社参照)

境内神社 稻荷神社 祭神 倉稻魂命 (厨神社参照) ○彦龍命 釋日本紀(卷六)の内

村社

摩賀多神社

鎮座 加美村大字越尾字越森

祭神 鵜草葺不合命

御事歴 鵜草葺不合命は 天津日高日子波瀲武鸕草葺不合命と云ふ。天津日高日子穗々

出見命の御子、御母は海神の女 豊玉毘賣命である。則ち神武天皇の御父神に坐す。穂々出見命(火々出見命) 海神の御元に到り、御女 豊玉姫命に娶ひて三年をかり居給ひて皇國に還へり給ふ。後豊玉姫命 御跡を慕ひて渡り來まして御子を産み給はんとして、波瀲に産屋を建て屋根に鵜の羽を以て草となし葺き給ふ時に、未だ屋根葺き終らざるに産屋に入つて御子を生み給ふ。依てこの

豊前國風土記の條に依れば或は開羅神あるべし(貴布禰神社参照) ○大山祇命(山尾神社参照) ○猿田彦命 素鷲神社参照)

名あり。命は 玉依毘賣命を婚へて生みませる御子、五瀬命、稻氷命、御毛沼命若御毛沼命 亦名神倭伊波禮毘古命(神武天皇)四柱である。日向國高千穗宮に五百八十歳坐す、御陵は高千穗山西にある(鶴坂神社參照) 齋神社祭神倭姫命(加美村八幡神社參照) 八坂神社祭神素盞鳴命(錦織神社參照)

村社

北山神社

稻岡南村大字北庄山手宇山王子

鎮座 祭神

伊弉册命、速魂之男命、事解男命、品陀別命

相殿

少彦名命

御事歴

伊弉册命(二上神社參照) ○速魂之男命 ○事解男命(波多神社參照) ○品陀別命(久米村八幡神社參照) ●相殿少彦名命(少彦名神社參照)

境内神社

國司神社祭神 大山祇神(山尾神社參照) ○大國主神(宮代神社參照) ○

素盞鳴命(錦織神社參照) ○經津主命(刀入神社參照) 興津神社祭神 火産靈

神(軻遇津知命)(小原神社參照) ○興津彦命 興津姫命(龍山村八幡神社參照)

熊野神社祭神 伊弉諾命(二上神社參照) ○久須比野神 本名を熊野久須比命

と云ひ亦熊野忍踏命、熊野忍隅命、熊野大隅命と云ふ。天照大神の御子である

。天照大神と素盞鳴命と御誓約の時に生れになつた神である(鶴坂神社參照)

稻荷神社祭神 ○彦火々出見命(日高神社參照) ○倉稻魂神 保食神(厨神社

參照) 水分神社祭神 水分神 伊弉諾命の御孫である。速秋津彦命 速秋津姫命

河海に依つて水の事を持別けて生み座せる神が八柱ある。雨水を程々に分配し

給ひて五穀を豊饒にからしむる神徳がある。造化神社祭神 天御中主神(本社

に見ゆ) ○高皇產靈神 亦の名を 高木神こもくのかみ 薦枕高皇產靈神と云ふ。(神魯岐命である) ○神皇產靈神 亦名を 神產巢日御祖命、神魂大刀自命と云ふ。(神魯美命である) この三神は何れも天地開闢の初め高天原に成り出で給ひし神にて獨神で且つ御身を隠しましぬ。これ即ち造化の三神で國土經營につき御事蹟は頗る大である。高皇產靈神 神皇產靈神の二神は天地間の萬物を造化繁成せしめ殊に伊弉諾伊弉冊の両神の國土神人を生み又國を修理固成の時、又天照大神の石屋に幽居し給ひし時、又皇孫瓊々杵尊天降坐す時、又大國主命の國讓の時等大神の御力に預る事が多いのである。○天照大神(鶴坂神社參照)

村社

鎮座

天 津 神 社
稻岡南村大字山之城宇朝日山

祭神

天香々脊男あまのかほせきお、倉稻魂命くらいなたまのみこと、素盞鳴命すさなりのみこと、菅原神すがはらのみかみ、大國主神おほくにのみかみ

御事歴

天香々脊男 亦の名を天津瓊星と云ふ。系統不詳。大國主命の國讓りの時、武甕槌命 經津主命天降りまして大國主命と談判調立の後岐神の道案内にて天下を巡廻し平定された。其時反抗したる星神天香々脊男は倭文神健葉槌命を遣はせば遂に降服せり。云々と日本書紀に見えたる以外に御事蹟不明である。

倉稻魂命(厨神社參照) 素盞鳴命(錦織神社參照) ○菅原神(八出神社參照)
一 ○大國主神(宮代神社參照)

境内神社

龍 神社 祭神 海底神かたそこのみかみ 詳かでないけれど綿津見神ならんか。(諏訪神社參照)
高 神社 祭神 素盞鳴命すさなりのみこと (本社にあり)

村社

稻 岡 神 社

鎮座

稻岡南村大字南庄字南王子

祭神

大己貴命、神日本磐余彦命、事代主命、伊弉册命、稚産靈命、素盞鳴命、
奥津彦命、奥津姬命、

御事歴

大己貴命（宮代神社参照）○神日本磐余彦命 亦の名を神倭磐余彦火々出見命、
若御毛沼命、豊御毛沼命、狭野命と云ふ、後に御謚を神武天皇と申す。御父は
鵜草葺不合命にて第四皇子、御母は海神の娘玉依姫である。皇孫瓊々杵命以來
世々日向國高千穗宮におはしまして四方の國を御統治遊ばし給ひしが天皇（神
武）の時に及び皇兄五瀬命と議して天業を煥弘せんことを圖り、茲に都を東國
に移すの策を決し、即ち舟師を率ゐて日向を發し豊國宇佐を経て筑紫の岡田宮
に在ます事一年、安藝國多祁理又吉備國高嶋の宮に在ます事三年、更に海路よ

御事歴

り浪速を過ぎて日下の蓼津に至り土曾長髓彦と戦ひて利あらず。五瀬命は不幸
にして流矢に中り給ふ。茲に於て天皇即ち舟師を轉じて紀伊國隱山に至りしが
五瀬命は其の傷重くして遂にこの地に薨す。かくて天皇は進んで丹敷戸畔を誅
し次で大和の菟田に入りて兄狛又兄磯城等を誅して兵威頓に振ふ。饒速日命之
を聞きて大に懼れ長髓彦を殺して降服した。尋で十蜘蛛新城戸畔、居勢祝、
猪祝等皆誅に服し中州全く平定す。茲に於て都を大和國畝傍權原に奠め初め
て天皇の位に即く。是れ我國初代の天皇にして實に紀元元年辛酉の歳となす。（
大正十年より二千五百八十一年前）建國の大業茲に成る。次で天種子命をして
天津罪國津罪事を解除せしむ。又靈時を鳥見山中に立て天富命をして皇祖天神
を祭りて神祇の恩に答へしめ且つ三種の神器を同殿共床に奉祀して天祖の神靈

とし以て天下に臨み給へり。天皇在位七十六年聖壽百二十七歳にて薨す。大和國高市郡畝傍山東北陵に在す。天皇の太后は美知之大物主神女比賣多々良須氣余理比賣命と云ふ。○事代主命(志呂神社参照)○伊弉册命(二上神社参照)○雅産靈命 亦若御魂神と云ふ。古事記には伊邪那美命の御子とあり。書紀の一書には火産靈神埴山毘賣神に娶ひて生坐神名は稚産靈神とあり。この神は豊受姫神と同じく五穀豐饒を守護し給ふ。古事記には和久産巢日神と書く。○素盞鳴命(錦織神社参照)○奥津彦命 奥津姫命(龍山村八幡神社参照) 脆像神社 祭神 田心姫命(鶴坂神社参照) ●稻荷神社 祭神 倉稻魂命(厨神社参照) ●綿津見神社 祭神 綿津見命(諏訪神社参照) ●興津神社 祭神 興津彦命 興津姫命(本社にあり) ○大國主命(宮代神社参照) ○久名戸命

境内神社

(西幸神社参照) ●菅原神社 祭神 菅原神(八出神社参照) ●猿田神社 祭神 猿田彦命(弓削町素鷲神社参照) ●素盞鳴神社 祭神 素盞鳴命(本社にあり) ●岡本神社 祭神 素盞鳴命(本社にあり) ○軻遇突智命(小原神社参照) ○高麗命(貴布禰神社参照) ○天照大御神(鶴坂神社参照) ○見保津姫命 高皇産靈命の御子である。建雷神天下の荒振神等を言向平定されて天津神に返言白せし時大物主神、大國御魂神、事代主神、八百萬神等天の高市に昇りて天津神に従奉るの誠意なりと陳す。時に高皇産靈神大物主神に勅して曰く「汝若國神を妻とあさむ天津神に逆く事あらん。依て今吾女三穗津比賣命を汝に配て妻とせよ。宜しく八百萬神を領して永く皇美麻命を守護すべしと詔して還し降らしむ。」(古史成文) ●愛宕神社 祭神 ○遇突智命(小原神社参照)

村社

加茂神社

鎮座

稻岡南村大字北庄里方字江戸ヶ嶋

祭神

大穴牟遲命、玉依姬命

御事歴

大穴牟遲命（宮代神社參照）○玉依姬命 御父は太王命の御子健角身命御母は丹波國伊賀古夜比賣則ち加茂別雷命の母神である。山城國風土記を案するに賀茂健角身命、丹波國神野神伊可古夜日女に娶ひて生み坐せる御子を玉依日賣と云ふ。一日石川瀬見の小川に遊ぶ時に丹塗矢流れ下る。之を取り歸へりて床の邊に置きければやがて孕みて別雷命を生み給ふ。京都府愛宕郡下鴨村官幣大社賀茂御祖神社に祀られてある。「成人せし時建角身命は八尋屋を造り八の戸扉を立て、八腹を漬して神々集ひて七日七夜樂遊して其の子に語るに、汝の父と

村社

八幡神社

鎮座

龍川村大字全間宮ノ元

祭神

譽田別尊、天兒屋根命、素盞鳴命、火産靈神、奥津彦命、奥津姬命、海童神

相殿

足仲彦命、息長帶姫命、武甕槌命、經津主命、姫大神

御事歴

譽田別尊（久米村八幡神社參照）○天兒屋根命（榊葉神社參照）○素盞鳴命

思ふ人に此酒を飲ませよと云ふ。即ち酒杯を取りて天に向つて祭りおし、屋根の甍を穿ちて天に昇りさ。乃祖父の名に依て可茂別雷命と云ふ云々」と風土記にあり。又古事記には「大山咋神（中畧）此神は近淡海國日枝亦葛野の松尾に坐す鳴鏑に成ませる神なり云々」とある。即ち大山咋神が丹塗矢に化して玉依姫に娶まして、加茂別雷神を生されたのである。

(錦織神社參照) ○火産靈神(小原神社參照) ○奥津彦命 奥津姬命(龍山村八幡神社參照) ○海童神(諏訪神社參照) ●相殿 足仲彦命 息長帶姬命(埴和村龜山八幡神社參照) ○武甕槌命 ○經津主命(刀八神社參照) ○姫大神 天兒屋根命の戸神である。 祝詞考に萬幡姬命とあり(貴布禰神社參照) 當社は春日神社を合祀したるものにして天兒屋根命以下四柱大神は藤原氏の祖神にして奈良市官幣大社春日神社の祭神である。

境内神社 天滿神社 祭神 菅原神、(八出神社參照)

村社 倉尾神社

鎮座 龍川村大字上二ヶ長ノマへ
 祭神 大日靈貴命、木花開耶姬命、伊弉册命、姪子命、大山祇命、素盞鳴命、

大國主命、少彥名命、天兒屋根命、天細女命、海底命、大道命、保食命、稻倉魂命

御事歴

大日靈貴命(輪坂神社參照) ○木花開耶姬命 亦の名を櫻大刀子の神 ○吾田津比賣命 豊吾田津比賣命 鹿葦津比賣命 神吾田鹿葦津比賣命と云ふ。邇々藝命の後神である。天津日高日子番能邇々藝能命、笠沙の御前にて美女に出遇ひ、汝は誰の女と問給へと、彼女は大山祇神の女名は木花之佐久夜毘賣と謂す。命姫を娶らん事を求む。姫は父に問ひ給へと答ふ。命仍つて之を父に乞ふ。父喜びてその姉石長姫と共に献る。姉の容貌醜なるを以命は咲耶姫のみ止らられた。父命曰く「石長姫を遣したるは、天神御子の壽命が石の如く常磐に動かしまじとの爲め、又木花咲耶姫は、木花の榮えますが如けれとの爲めに献りしに、

今石長姫を返へし、獨り咲耶姫を留られしは御壽命は木花の如くさん」と申す。
 ○石長姫命は伊豆國加茂郡雲見嶽に鎮座。後姫命は天孫の宮に到りて申し曰く
 妾は孕みて今臨月に及びぬ是れ天神の子あれば私に生むべきにあらまど天孫之
 と歎ひ吾が御子にあらまどし給ふ。姫命誓ひて新に産室を作り四方戸あく土を
 塗りて火をつけて焼きその中に生み給ふよ御誓ひの如く恙なく御産の事あり。
 天孫即ち歎を解き給ふ、即ち 火照命 火須勢理命 火々出見命の三神である。
 ○伊弉册命 (二上神社參照) ○蛭子命 (福渡村八幡神社參照) 大山祇命 (山
 尾神社參照) ○素盞鳴命 (錦織神社參照) ○大國主命 (宮代神社參照) ○少彦
 名命 (少彦名神社參照) ○天兒屋根命 (榊葉神社參照) ○天細女命 亦の名を
 天於受賣命、大宮比賣命、大宮能賣命、宮比神、矢之波波伎神と云ふ。天太玉

命の御子である。天照大神の天之岩戸は幽居の時(鶴坂神社及榊葉神社參照)
 天の日影を禊(今の狐の禊也)よかけ、天の眞柝を鑿として天香山之小竹葉を
 手草と結ひて汗氣を伏せて蹈みとどろかり神懸りして胸乳を掛出し、裳緒を番
 登に押垂して舞ふ。諸神皆大笑ふ。天照大神吾れ隠れ居るにかく賑かに笑ひ遊
 ぶは何故かど甚だ怪しく思召して岩屋戸と少し開きて見給ひりかば、石戸別命
 は直ちに御手をとつてお迎へかされた。こま即ち神樂の起源である。後又天孫
 降臨の時天之八衢に於て、猿田彦大神と應答の事あり貢獻さきた。故に猿女神
 とも云ふ。(素戔神社參照) 御巫猿女君等の祖である。○海底命(天津神社參
 照) ○大道命 不詳或は猿田彦命あらんか。○保食神 稻倉魂命 同神にして五
 穀の神である(厨神社參照)

境内神社

忠春神社 祭神 忠春神

姓は源。氏は赤木。本姓菅原。氏は陶。幼名宗一郎

二六

文化十三年十月三十日生。久米郡龍山村大字中榎赤木常五郎の養子となる。實父同郡福岡村大字八出陶太郎左衛門次男生家代々天満宮（現今八出神社）の祠官にして父津山藩領の庄屋兼帶す。天保六年赤木常五郎女八重子に入夫した養父常五郎は古河藩領の大庄屋であつた。忠春入夫三年の後眼病に對り漸次險惡となり遂に両眼失明した。故あつて黒住宗忠の門下に入り八年の難病直ちに癒えた。越えて嘉永三年二月宗忠率するの時池田金森等の有志と計り教祖に大明神號を吉田殿に請はんと京都に上り吉田町に假寓し黒住宗忠御道の講演を開設す。こゝ京都に於ける黒住教の開祖である。忠春仁徳高く禁厭其の加護神に通じ既に吉田殿老母の難病即治を初め殿上人の信任厚く九條家息女の大患を全快

し又六條有容郷の息女病氣即癒する等思頼に浴する者多くそれより京都高貴の家々に入出入する事となり遂に聖上（孝明天皇）の敍聞に達し彼の元治元年宮城蛤門の騒亂の時聖上の御下問に直答し禁庭御動座を御取止に成つた事がある。之實に忠春最後の靈驗的活躍であつた。彼晩年榎影即トホカミ教を信じ一派を立て大元の忌避する所とあり宗忠の高弟にして宗忠を授けたる甲斐もかく疑惑の内に慶應元年四月十六日卒す。年五十歳。明治五年八月忠春神社を京都神樂ヶ岡に祀り又龍山村中榎に建立す。後當地に移轉せるものである。

村社

幣

代

神

社

鎮座
祭神

龍山村大字上榎字ミテシロ
伊邪那美命

二七

御事歴 伊邪那美命 (二上神社参照)

境内神社

伊勢神社 祭神 大日靈貴命 (鶴坂神社参照)

春日神社 祭神 天兒尾根命

(神葉神社参照) ●遠岐津神社 祭神 素盞鳴命 (錦織神社参照)

奥津彦命にて祭神の誤記又は脱漏したのであらう。●角神社 祭神 伊邪那岐命

(同上) ●森神社 祭神 大國主命 (宮代神社参照) ●森神社 祭神 大國主命

(同上) ●奥津神社 祭神 奥津彦命 (本村八幡神社参照)

村社 門 神 社

鎮座 龍山村大字上靱字石名

祭神 豊岩間戸命 榊岩間戸命

御事歴 豊岩間戸命、榊岩間戸命は御同一神にして、御門の左右を御守護に依り二神であ

る。亦名天手力男命、伊佐布魂命、明日名門命、阿居太都命、天背男命、天石帆別命、天石戸別、安國玉主命、玉主命、天嗣稚命と云ふ。高皆産靈神の御子角凝魂命の御子である。天照大神天之岩戸に幽居の時、手力男命石戸の掖に立ちて大神の石戸を少し開き給ふ時戸押開き大神の手をとりて引出し給ふ。(倉尾神社参照)又邇々藝命降臨の時思兼神、手力男神、天石戸別神(古事記)を添へて降し給ふ。總て門と守護し給ふ神である。

境内神社

遠伎津神社 祭神 素盞鳴命 (幣代神社参照) ●森神社 祭神 大國主命 (宮

代神社参照)

村社 笹井神社

鎮座 龍山村大字上靱字笹井

祭神 伊邪那美命

御事歴 伊邪那美命 (二上神社参照)

境内神社 遠伎津神社 祭神 素盞鳴命 (幣代神社参照)

村社 今井神社

鎮座 龍山村大字上根字今井

祭神 素盞鳴命

御事歴 素盞鳴命 (錦織神社参照)

村社 八幡神社

鎮座 龍山村大字中根字ヤワタ

祭神 譽田別命

相殿 大己貴命、素盞鳴命、少彦名命、

御事歴 譽田別命 (久米村八幡神社参照) ○大己貴命 (宮代神社参照) ○素盞鳴命 (錦

織神社参照) ○少彦名命 (少彦名神社参照)

境内神社 赤神社 祭神 大日靈貴命 (鶴坂神社参照) ●齋神社 祭神 宇賀之御魂命 (

厨神社参照) ●若宮 祭神 伊邪那岐命 (二上神社参照) ●奥津神社 祭神 火産

靈神 (小原神社参照) ○奥津彦命、奥津姫命 亦名を大戸比賣神この二神を總

て庭津日神 庭高津日神と云ふ。大年神の御子御母は天知迦流美比賣命である。

此大神は諸人の籠の神に座して火産靈神と共に祀る則ち籠戸神である。

●森神社 祭神 大地主神其土地の地主の神を祀りたるものおれど當社は大己貴

命なるべし (宮代神社参照) ●齋神社 祭神 宇賀之御魂命 (在上)

村社 糺山神社

鎮座 龍山村大字下糺字龍王山

祭神 大穴牟遲尊

御事歴 大穴牟遲尊 (宮代神社參照)

境内神社

八坂神社 祭神 素盞鳴命 (錦織神社參照) ●齋神社 祭神 宇賀之御魂神 (厨

神社參照) ●若宮祭神 伊弉那岐命 (二上神社參照)

●奥津神社 祭神 火

産靈神 (小原神社參照) ●奥津彦命與、津姬命 (本村八幡神社參照) ●森神社

縣社 志呂神社

鎮座 福渡村大字下神目字三樹山

祭神 積羽八重言代主神

相殿 保食神、息長帶姫命、品陀別命、大己貴神、猿田彦神、顯國王神

御事歴

積羽八重言代主神 亦名を天事代主神 都波八重事代主神と云ふ。大國主神の御

子、御母は多岐都比賣命と申す。大國主神の國土讓りの時、武甕槌神、經津主神

の二神大國主神に向ひ「この國を天津神の御子に獻れ」と申せば「僕は得白さ

せ、我子八重言代主神答へ白すべく、然れ共鳥遊び魚取りして三保の崎に往き

未だ還らせ。依て天鳥船神を遣はして問ひ給へば、答へ白すに「父大神畏し。

此國は天津神の御子に奉り給へ」と。即ち言代神主は其乗船を踏み傾けて天の逆

手を青柴垣に打ち成して遂に隠れ給ふ。又大國主神國を獻りて申さるゝに「僕子

等百八十神は即ち言代主神、神の御尾前にありて仕へ奉らば違ふ神あらせ云々

「と。故に此の大神は朝廷に於て特に尊敬せられ則ち神祇官八神殿に加へて祀られた。又この大神をエビス、父神をダイコクと稱し何れも幸福の神として家々に祭祀する。(宮代神社参照) ●相殿 保食神(厨神社参照) ○息長帶姫命(井和村八幡神社参照) ○品陀別命(久米村八幡神社参照) ○大己貴神(宮代神社参照) ○猿田彦神(素鵝神社参照) ○顯國王神亦名を大國主神と申す上に見えたり(宮代神社参照)

境内神社

天満宮 祭神 菅原神すげはらのかみ (八出神社参照) ●伊都岐神社 祭神 倉稻魂命くらいねたまのたま (厨神社参照) ●相殿七柱不詳とあり。案ずるにこは大嘗會齋院の八神にはあらざるか。延喜式第七に「即於三齋院三祭神八座二御歳神、高御魂神、庭高日神、大御食神、大宮女神、事代主神、阿須波神、波比伎神」とありて則大御食神は倉稻

魂命なれば相殿七柱は以下の七神なるべし。 ●總神社 祭神 下神目外二十五ヶ村鎮座諸神 二十五ヶ村とは下神目、神目中、上神目京尾、南畑、安ヶ吶、峠、宮地、下二ヶ山手、全間、下二ヶ、上二ヶ、下弓削、上弓削、鹽之内、松、西山寺、泰山寺、佛教寺、上榎、中榎、下榎、別所、川口、福渡、豊樂寺、三明寺の一部の現今の二十七大字を云ふ。 ●相殿 大歳神おほととしのかみ (下にあり) ○八百萬神やっぴやうのかみ これは天津神國津神の一切の諸神を總稱する。 ●龍神社 祭神 高龍神たかりゆうのかみ 關靈神せきのみたまのかみ (貴布禰神社参照) ●都地神社 祭神 須佐之男命すさのおのわかみ (錦織神社参照) ●愛宕神社 祭神 火産靈神ひむすひのみたま (小原神社参照) ●炊神社 祭神 火産靈神ひむすひのみたま (在上) ○奥津彦命おくつひのみたま 奥津姫命おくつひめのみたま (龍山村八幡神社参照) ●大歳神社 祭神 大歳神おほととしのかみ 亦名を大歳御祖命おほととしのみたまと云ふ。素盞鳴命の御子御年神及羽山戸神の御子若年之神と共に五穀

豊饒を守護し給ふ大神である。又家々の年越祭に祀る若年之神も此の三柱大神である。(少彦名神社参照) ●炊神社 祭神 火産靈神(小原神社参照) ○奥津彦命 奥津姫命(龍山村八幡神社参照) 高皇產靈神、(北山神社参照) ○倉稻魂命、(厨神社参照) ○伊邪那美命(二上神社参照) 大日靈貴命(鶴坂神社参照) ○少彦名命、(少彦名神社参照) ○加茂神 京都府官幣大社加茂別雷神社 祭神 加茂別雷神(之を上加茂と云ふ) 同加茂御祖神社 祭神 多々須玉依比賣命 賀茂健角身命(之を下加茂と云ふ) 當社はその何きの大神か不詳(加茂神社参照) ○天香々春男(天津神社参照) ○高麗神 閻雷神(貴布禰神社参照) ○大已貴命(宮代神社参照) ○來名戸神(西幸神社参照) ○天宇須賣命(倉尾神社参照) ○素盞鳴命、菅原道真公、保食神(三柱共在上) ○宇根神 不詳

村社

高井神社

鎮座 福渡村大字川口字高井谷

祭神 伊邪那美命

御事歴 伊邪那美命(二上神社参照)

境内神社 興津神社 祭神 素盞鳴命(錦織神社参照) ●森神社 祭神 大國主命(宮代神社参照)

村社

菅原神社

鎮座 福渡村大字川口字天神

祭神 菅原神

御事歴 菅原神(八出神社参照)

境内神社

奥津彦神社 祭神 素盞鳴命すさのおりな

(錦織神社参照)

●森

神社 祭神 大國主命おほくにのみこと

一四〇

村社

八幡神社

鎮座 福渡村大字福渡字宮山

祭神

品陀別命ひんだわけのみこと

相殿 二座神名不詳

御事歴

品陀別命(久米村八幡神社参照)

境内神社

天 神社 祭神 菅原神すげののかみ

(八出神社参照)

●速須佐之男神社 祭神 速須佐之

男命(錦織神社参照)

●若宮 祭神 不詳 ●惠美須神社 祭神 蛭子命むすこのみこと

命、伊那那美命の御子である。父母の二神は天津神の命を以て、國土を修理固成つくろいこたへ

村社

なさんと天下りまして、夫婦の契を結び給ふ時に、八尋殿にて、女神の言先達

つて不吉とあり、その生みませる御子蛭子命は、三年にあつても脚が立たず、

遂に葦船に入れて流された。次に淡州あはしほを生む。この二御子は御子の數に入らな

いものである。(日本書紀に依る)かくてこの大神は攝津國武庫郡西宮町に祀り

て惠美須宮と稱す。○大名持命(宮代神社参照)

村社

宮地神社

鎮座

神目村大字宮地字宮山

祭神

山末大主神、素盞鳴命、譽田別命、火産靈神、奥津彦命、奥津姫命

相殿 大己貴命

御事歴

山末大主神 亦の名を大山咋神と云ふ。素盞鳴命の子大年の神御子で、御母は

一四二

天知迦流美豆比賣命である。この神は近淡國日枝神社に坐し、加茂別雷命の父神である。又山林樹木發生の事に御功德があり、御兄弟十二柱と共に國家を守護し、人民を保育し給ふ。殊に大神は酒類醸造の事を掌り、神德靈現の神にして松尾神社の祭神である(加茂神社參照) ○素盞鳴命(編織神社參照) ○譽田別命(久米村八幡神社參照) ○火産靈神(小原神社參照) ○奥津彦命、奥津姫命(龍山村八幡神社參照) ●相殿 大己貴命(宮代神社參照)

境内神社

- 松尾神社 祭神 大山咋命(在上) ●相殿 木花開耶姫命(倉尾神社參照)
- 齋神社 祭神 倉稻魂命(厨神社參照) ●高靈神社 祭神 高靈神(貴布禰神社參照)
- 森神社 祭神 大國主命(宮代神社參照)

村社

峠 神 社

鎮座

神目村大字峠字政谷

祭神

伊邪那美命 ●相殿 阿波良和命

御事歴

伊邪那美命(二上神社參照) ●相殿 阿波良和命 伊勢皇大神宮の大神主である。

神道五部書御鎮座次第記上註に曰 阿波羅波神原本傍註云安康御宇多大神主云々

境内神社

- 稻荷神社 祭神 倉稻魂命(厨神社參照) ●火産靈神(小原神社參照)
- 鉦女神社 祭神 天鉦女神(倉尾神社參照) ●興津神社 火産靈神(小原神社參照)
- 興津彦神、興津姫神(龍山村八幡神社參照)

世界國多しと謂ふても、我國の如き優秀なる國體を持つて發達しつゝ、ある國は決して無い。我國體が萬國無比であるが如く、我國の神社と云ふものも萬國無比である。是れ實に神社を國家の宗祀として崇敬尊信することが、國體の中樞をなす國民性であるからで、又國體と神社とが切つても切られぬ間柄に在る所以である。世界の大戦争の中期から戦後に掛けて、多數人の思想が如何にも世界的に動搖して、何れの國家も此新興の思想から少からず脅威を感じて居るものがあることは、少しく思想問題に携はつて居る程の者は、何人も首肯する處である。殊に我國にとつては、それが所謂外來思想？ 必ずしも恐怖悲觀す可きではないとしても、少からず國家權威を蹂躪する危険的思想には、十分に取扱上の注意を要する思想？ として、滔々として祖國の岸を襲ふものがあるのて、是迄のやうに東海を表に兀立した優秀平和なる國家生活を營んで居るには、如何にも不安があり混雜があるやうに、痛切に感せしめられて居る時に方つては、何とかし

て國民の思想を善導し、出來得べくんば之を統一して、安定の位置に就かしめたいと云ふことは、朝野の識者の腐心もし焦慮もして居る處である。國家としても之が施設經營に怠らざるは勿論國民としても思想に對する理解と準備とを闕いてはからまい。

今日まで幾多の識者先輩が、思想の善導やら國民精神の振興やらに論議を重ねて居る處も必ずしも尠くは無い。が、其實行の方法手段に到つては、結論として、國民として益々健全なる國家觀念を持たしむるやうにせねばならぬと云ふに到達して居るのである、(床次内務大臣戦後民力の涵養に關する五大要綱の第一項) 換言すれば我國體の萬國無比ある素質を備へて居ることを明かにして、國體の心核たる君民一家、忠孝一本の國民道德を實修せしめる、之れには更に之が根柢たる敬神崇祖の觀念と鼓吹し振興するのが、最も重要であるといふことに結着する。然らば敬神思想の涵養といふことについては、其實修としても多種多様であらねばならぬ、神

社の整備、境内の清掃、祭祀の嚴修、一として斯れが涵養に資せぬものは無い。併しあがら斯くして祭祀せらる、肝心の御祭神は果して氏子たり國民たるものに對して、如何なる間柄にあるものであるか、國家の宗祀として祭祀を稟くるに至つた御神徳御功蹟は果して如何なるものであるか、換言すれば御祭神の御事歴は如何なるものであつたかと云ふことを、先づ以つて宣揚することなければ、到底徹底した報本反始の至誠を捧げ、之に敬事せることが出來ぬわけである。即ち御祭神の御事歴の宣揚は畢竟御神徳の發揚であると申すべきである。

今日全國を通じて敬神思想の鼓吹やら、神社中心の施設やらも論せらまじつ、あるが、崇敬する御祭神が如何なる御神徳を樹て給ふたかを承知させまいでは、只徒らに形式崇敬のみを強めるもので、眞の精神的崇敬を捧げしめるには、餘程の經延があると謂はねをからぬ。たゞ「人若し汝が朝夕敬事する汝の祖先は、汝の家にとつて幾何の功績を貽したものであるか」と問

はれて、其功績も就いて知る處のちいのと同一である。我國の神祇祖先の崇敬は必ずしも理屈ばかりでは行かぬとしても、現代及び將來の國民に對しては、御祭神の御事歴に對して十分の理解と與へて置くことは極めて大切のことである。私は常々感じて居つた。即ち「敬神思想の涵養は、御祭神御事歴の闡明から出發せねとからぬ」と此基礎の上に立つた敬神思想こそは、内々克く國體の本義と合致し、外に克く世界の大勢に順應して、衰へず退かず、寧ろ積極的に、神祇の威靈を感得して、生々發展の眞事實を顯現するものであり、朝夕の敬事の至維持經營に至つて、獎め進めて其實修を懈るものではないと確信する。

久米郡神職會は私と同感共鳴の態度を執られて、今度郡内の村社以上の神社六十九社の御祭神百八十余柱について、御事歴調査の事業を完了して、祭神考証と稱する一書を編纂せられた。もとく敬神思想の普及を目的としていたので、必しも括弧贅言の難文字を用うべきではな

い。最初は普通文體であつたが、言文一致の平易ある行文に改められたことは、殊に私の意を得て居る。編纂の任に當らされた郡内神職家本正武爲貞元臣兩君の用意と努力とは素より敬謝に堪へぬ。斯くして敬神思想の涵養に資する處あらば、獨り全郡の爲めに貢獻する處はかりであり、實に邦家の爲めに多大なる効果を齎らすべき聖い奉仕であると謂はねばならぬ。一般神祇道界に裨益する處も素より大である。更らに本書が郡内の神職諸君は勿論郡内有識の士によりて有効に閱讀され使用せられたことであるからは、斯種の事業が必要であるにも拘はらず未だ多くの地方で着手せらるべきだけそれだけ全郡神職會の事業として永く榮光と名譽とを荷ふわけである。若し夫れ郡内の學校に於ては、修身國史乃至郷土誌の實物教材を神社に得て、克く第二の國民を教養する處があり、先輩識者は理解ある敬神思想を實修して其範を示し以て郷黨を導く處があり、更に神職は自家奉仕の社頭には御祭神の御事歴を畧記して之を掲示する處の

ものがあつたならば、蓋し久米の皿山さらに燦然たる精神的文化の淵源地として江湖の瞻望することある可きは當然のこと、信ずる。要は本書をして單り神社の藏書たらしめ、神職口授の秘傳書たらしむる處でなく、御神徳を宇内に周知發揚せしむることであつたらん、今や國家が思想的に不安の状態にある危機を極ふ上に偉大なる効果を顯はすものであると思ふ。私は嘗て全郡縣社貴布禰神社に奉仕した關係もあり、神社にも神職にも直接間接に淺からぬ縁故もあるので全郡神職會の本事業を廣く江湖に推奨することに躊躇せぬ。私は謏劣敢へて當らぬ處であるが、校閲者として私を推された神職會の幹部の芳志感謝するばかりでなく、私の一身を通じての光榮として永く忘れることは出来ぬ。旁々本書の成るに及んで蕪辭を陳べて巻尾に跋した次第である

大正十年十月

國幣中社中山神社宮司
從六位 藤 卷 正 之

正 誤 表

頁	行	誤	正
一	六	火産罔命	火産靈命
三	三	齋き	齋き (以下同之)
三	六	奉齋	奉齋 (以下同之)
四	十	怒り	怒り
九	一	磐れ余	磐余
九	九	諏和	諏訪
二〇	六	雨の下	天の下
三	七	八千子神	八千矛神 (以下同之)
三	十	庶見弟	庶兄弟
三	三	廣予	廣予 (以下同之)
三	十	予	予
三	三	祭祀	祭祀
三	九	困りて	困りて
三	七	楯予	楯予
三	九	越し樹	起し樹
三	十	御祖命ど	御祖命に
三	三	奇しき	奇しき
三	六	答くて	答へて

四	天。振神	荒。振神	七	猿田女君	猿女君
五	仲哀。天皇	仲哀。天皇	七	寄。稻田比賣	奇。稻田比賣
五	影。行天皇	景。行天皇	八	遂にはの	遂にこの
五	衷。	喪。	八	衷。訴す	哀。訴す
五	從つて	從へて	七	索。鵝神社	素。鷺神社
五	菟。道彦	菟。道彦	九	河蘇麻呂	河蘇麻呂
五	仲哀。天皇	仲哀。天皇	九	神託宜	神託宜
五	二字。宮	字。今宮	九	つ。かて	か。つて
五	比姿。山	比婆。山	一〇	葦原	葦原
六	賀。茂神社	加。茂神社	一〇	天比理力。咩	天比理刀。咩
六	豐遠逆。比賣	豐遠迦。比賣	一〇	朝。延	朝。延

二九	五。聞まで	聞きて	一三	二。高皆。産靈神	高皇。産靈神
三〇	八。脆。像神社	胸。像神社	一五	八。言代神。主	言代主。神
三六	四。欸。ひ	疑。ひ	例言	一。町村。須	町村。順

(以下同之)

附言

以上は活字の誤植を正したるものなれどもこの外に尙ほ文字の違へるものなきを保し難し殊に祭神の振假名の如き例へば一〇頁一行の倉稻魂神(くらいなたま神)十一頁八行の少彦名命(すこひこなのみこと)等の如く組み誤りたるもの尠らず、これらを今正さんには却つて讀者の煩を來すべければ、それは各自讀者の訂正に任す事として其儘となしおきたり、大方讀者諸彦幸に諒承あれよ

大正十年十月二十六日印刷
大正十年十月三十一日發行

(非賣品)

著作者 岡山縣久米郡役所內
岡山縣神職會久米郡支部

發行者 岡山縣久米郡役所

印刷者 岡山縣菅田郡津山町大字二丁目六番地
安 東 佐 美

終

